情報を利用する

FM VICS情報など、さまざまな交通情報を受信してドライブに役立てられます。ETC履歴の情報などもご活用ください。

情報メニュー画面を表示する…… 80
VICS情報を利用する …… 80
VICSとは …… 80
交通情報の表示について…… 80
地図上に表示されるVICS情報（レベル3）…… 81
FM多重のVICS情報を利用する…… 82
FM多重 VICS情報を見る …… 82
ETC情報を利用する …… 82
ETC情報とは …… 82
ETC情報の画面表示と案内 …… 82
ゲート通過可否の案内…… 82
予告案内…… 82
警告表示…… 82
料金案内…… 83
ETCカード挿入／排出時の案内 …… 83
セットアップ時の案内…… 83
最新の利用履歴を読み上げる…… 83
ETCカードの有効期限を表示する …… 83
ETC情報の履歴を見る …… 83
ETCの車載器情報を表示する …… 84
ETC料金を割り勘にする …… 84
ETCの設定をする …… 84
その他の情報を利用する…… 85
ラジオの交通情報を受信する…… 85
GPSから現在地の情報を取得する…… 85
本機の情報を見る…… 85

情報メニュー画面を表示する

情報メニュー画面では、FM VICS情報を受信して、交通情報などを見られます。また、本機の情報やETC履歴などの情報も見られます。

MENU ▶▶ 情報 ▶▶

情報メニュー画面

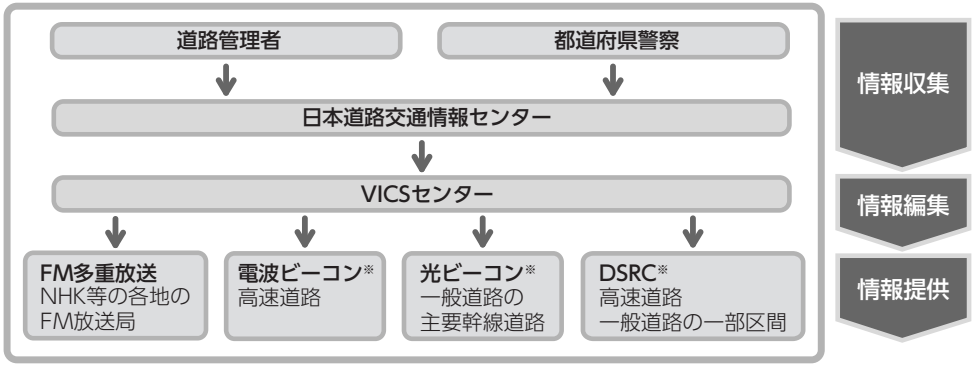
※走行中はタッチできる項目が限定されます。

VICS情報を利用する

VICSとは

VICS（Vehicle Information and Communication System）とは、渋滞や事故などの影響による規制情報や、目的地までの所要時間などの道路交通情報をナビゲーションに送信するシステムです。

■ VICS情報の流れ



※本機では受信できません。

交通情報の表示について

文字表示（レベル1）

簡易図形表示（レベル2）

地図表示（レベル3）

地図上に表示されるVICS情報（レベル3）

VICS情報を受信すると自動的に地図上に表示され、内容が更新されるごとに情報が書き換わります。
また、ルート情報リストでも、渋滞情報を色で確認できます。→ P.35
ルート上に渋滞・規制情報が存在する場合は、それぞれについて音声案内を行います。

受信マーク表示
VICS情報が提供された時刻を表示します。
※受信した時刻ではありません。
※メンテナンス等で休止している時間以外は、24時間VICS情報を提供しています。

VICSアイコン表示（1km以下のスケールで表示）
以下の情報をアイコンで表示します。→ P.232
交通障害情報：
事故、故障車、路上障害物、工事、作業など
交通規制情報：
通行止め、速度規制、車線規制などの臨時規制
駐車場情報：
駐車場、SA/PAの満車・空車情報
「地図上のVICS表示設定」で表示／非表示を設定できます。→ P.155

カーソルをVICS情報のランドマークに合わせると、VICSアイコン情報が表示されます。（2D地図のみ）

VICSアイコン情報は、「スクロール地点情報表示」で表示／非表示を設定できます。→ P.156

渋滞情報を線で表示
（1km以下のスケールで表示）

赤色	：渋滞
オレンジ色	：混雑
黄色	：規制
水色	：順調

200m以下のスケールでは、渋滞の方向を示す矢印も表示されます。
「地図上のVICS表示設定」で表示／非表示を設定できます。→ P.155

⚠ 警告

- **安全のため、運転者は走行中に操作しない**
  前方不注意になり、交通事故の原因となるおそれがあります。

FM多重のVICS情報を利用する

本機は、内蔵のFM多重受信機でFM文字多重放送を受信し、広域の交通情報を表示します。
渋滞情報、所要時間、事故情報、道路工事情報などが数分ごとに更新されます。

緊急情報以外のレベル1情報、およびレベル2情報は、受信しても自動的に表示されません。手動で情報を選択し、表示させてください。
レベル3情報を受信すると、自動的に地図画面上に表示されます。

お願い

- 表示されるFM VICS情報は、あくまでも参考です。実際の交通規制や道路状況を確認してください。

お知らせ

- 地図の大きさを詳細に変えているときは、各FM VICS情報が表示されない場合があります。

MEMO

- FM VICS情報が更新されていない場合は、更新前に受信した情報が表示されます。
- FM多重放送の受信地域は変更できます。
→ P.155

FM多重 VICS情報を見る

1 MENU ▶ 情報 ▶ FM多重

2 **見たい情報を選択**

図形情報：
渋滞情報を図形表示で確認する。

文字情報：
渋滞情報などを表示する。
※地域によっては、情報が発信されない場合があります。

所要時間：
各地への所要時間を表示する。

緊急情報：
FM VICS情報から受信した緊急情報を表示する。

3 **見たい項目の番号を選択**
FM VICS情報が表示されます。

ETC情報を利用する

ETC情報とは

ETC情報とは、ETCの料金情報や予告案内、警告情報などです。本機と連動する別売のETCユニットを接続すると表示されます。料金所ゲートを通過するときに、ETC情報を受信し、画面表示と音声で案内されます。

お知らせ

- 走行中は、操作できる項目が限定されます。

MEMO

- ETCの車載器管理番号などを表示させることもできます。
→ P.84「ETCの車載器情報を表示する」

準 備

●料金情報の案内や履歴の表示を行うには、ETCユニットにETCカードをセットします。
ETCユニットについて詳しくは、ETCユニット付属の取扱説明書をご覧ください。

ETC情報の画面表示と案内

ゲート通過可否の案内

●**「ETCがご利用できません」**

MEMO

- ETCが利用可能な場合は、「ポン」というブザー音が鳴ります。

予告案内

料金所に予告アンテナ／ETCカード未挿入お知らせアンテナが設置されている場合のみ案内されます。

●**「ETCがご利用できません」**
●**「ETCカードを確認してください」**

警告表示

●**「ETCカードを確認してください。」**
ETCカードが故障しているときや、ETCカードでないときに表示されます。

●**「ETCに異常が検出されました。販売店に連絡してください」**
ETCユニットの異常により、本機との接続ができないときに表示されます。

●「ETCカードが挿入されていません」
ETCカードの入れ忘れ警告を「ON」に設定した場合、本機起動時に表示されます。→ P.84
●「ETCカードの有効期限が切れています。ETCがご利用できません」
ETCカードの有効期限が切れているとき、起動時とETCカード挿入時に表示されます。
●「ETCカードを確認しました。ETCカードの有効期限は、XXXX年XX月です」
ETCカードの有効期限月の2ヶ月前から有効期限まで、起動時とETCカード挿入時に案内されます。
例：カード有効期限が2014年3月の場合、警告の開始は2014年1月1日からになります。
●「ETCカードの有効期限が読み取れませんでした」
ETCカードから有効期限データが読み出せなかった場合に表示されます。

料金案内

ETCユニットからの料金情報を受信すると、料金案内が表示されます。表示内容はナビゲーション画面、オーディオ画面とも同様です。
ETCゲート通過時に料金が徴収された場合、または料金の払い戻しがあった場合に案内されます。
●ETCがご利用可能です。支払い料金はxxxx円です
●ETCがご利用可能です。払い戻し金額はxxxx円です

ETCカード挿入／排出時の案内

●「ETCカードを確認しました」
ETCカードを挿入して正常に認証されたときに案内されます。
●「ETCカードの有効期限にご注意ください」
カード有効期限案内に対応していないETCユニットを接続している場合に、起動時とETCカード挿入時に案内されます。
●「ETCカードが取り出されました」
ETCカードを排出したときに案内されます。
●「ETCカードを挿入してください」
ETCカード未挿入で「利用履歴」「最新利用日履歴」「精算」をタッチしたときに案内されます。

セットアップ時の案内

●「ETCユニットがセットアップされていません」
ETCユニット本体がセットアップされていないときに表示されます。
●「ETCユニットのセットアップは行われませんでした」
ETCユニットのセットアップが正常に行われなかったときに表示されます。
●「ETCユニットのセットアップが終了しました」
ETCユニットのセットアップが正常に終了したときに表示されます。

最新の利用履歴を読み上げる

1 MENU ▶ 情報 ▶ ETC情報
2 最新利用履歴の読上げ
最後に課金されたETCの金額が音声で案内されます。

ETCカードの有効期限を表示する

1 MENU ▶ 情報 ▶ ETC情報
2 カード情報
ETCカードの有効期限（年、月）が表示されます。

ETC情報の履歴を見る

1 MENU ▶ 情報 ▶ ETC情報
2 利用履歴 または 最新利用日履歴
ETCカードが差し込まれている場合にETC情報が表示されます。
利用履歴：
最新の履歴より、最大100件のETC情報を表示する。
最新利用日履歴：
最新日に利用したETC情報のみ表示する。

MEMO
- 履歴読み出しが正常に行われなかった場合、「すべての情報を取得できませんでした。一部の情報が表示できません」と表示されることがあります。
- 一度も使用したことのない新しいカードの場合は、「情報がありません」と表示されます。

ETCの車載器情報を表示する

1 MENU ▶ 情報 ▶ ETC情報

2 車載器情報

車載器管理番号、型式登録番号、車載器型式が表示されます。

ETC料金を割り勘にする

ETC情報の履歴の中から履歴を指定して、希望の人数で割った金額を算出できます。また、駐車料金などの調整金額を含めて算出することもできます。

1 MENU ▶ 情報 ▶ ETC情報

2 精算

3 精算したい履歴を選択 ▶ 決定

日+：
精算する履歴を、1日分ずつさかのぼって追加する。

日−：
精算する履歴を、1日分ずつ解除する。

4 + または − で人数を調整

1人あたりの支払い金額が表示されます。

5 ETC以外にかかった料金がある場合は、駐車料金などを入力

6 金額を入力 ▶ 決定

1人あたりの支払い金額が表示されます。

— お知らせ —

- 計算可能な金額は100万円未満です。100万円以上になると「料金計算の範囲を超えています」と表示されます。

— MEMO —

- ETC履歴のICランプ情報が不明の場合、または料金所が新規追加され情報が不足している場合は、「情報なし」と表示されます。

ETCの設定をする

別売のETCユニット接続時の設定です。

1 MENU ▶ 情報 ▶ ETC情報

2 ETC設定

3 各項目を設定

カード挿入アイコン表示：
地図上にETCアイコンの情報を表示させるかどうかを選択する。（初期値：ON）

本体ブザー音：
ブザータイプのETCユニットのブザー音を鳴らすかどうかを設定する。（初期値：ON）

音声案内：
本機からの音声案内を出力させるかどうかを選択する。（初期値：ON）

カード入れ忘れ警告：
ETCカードを入れ忘れたときに警告させるかどうかを選択する。（初期値：ON）

カード有効期限案内：
ETCカードの有効期限が近い場合と期限切れの場合に、カード挿入時に画面表示と音声で通知させるかどうかを選択する。（初期値：ON）

表示割り込み時間：
ETCに関する情報を、画面に割り込み表示させる時間を設定する。（初期値：5秒）

— お知らせ —

- ETCユニットが「有効期限通知機能」に対応していないモデルでは、ETCカードの有効期限に関する警告は表示されません。

その他の情報を利用する

ラジオの交通情報を受信する

1 ソース選択画面を表示する→ P.103

2 交通情報

交通情報を受信します。

1620kHz/1629kHz：
周波数を切り替える。

解除：
交通情報を聞く前に視聴していたオーディオソースに戻る。

GPSから現在地の情報を取得する

1 MENU ▶ 情報

2 GPS現在地情報

GPSの測位状態、自車位置の緯度・経度、測位衛星・待機衛星の数が表示されます。

本機の情報を見る

1 MENU ▶ 情報 ▶ 本体情報

本体情報画面には、TV サーチ情報データの最終更新日、シリアル番号、地図のバージョン情報が表示されます。

Memo

通信機能を利用する

本機に携帯電話などのBluetooth対応機器を接続すると、ハンズフリーで電話をかけられます。

通信を利用してできること…… 88
Bluetooth対応機器を登録する…… 89
Bluetooth（ブルートゥース）とは…… 89
Bluetoothハンズフリーの
マルチポイント接続でできること…… 89
Bluetooth機器の取り扱いについて…… 90
Bluetooth対応機器を登録する（ペアリング）…… 90
接続するBluetooth対応機器を切り替える…… 92
登録したBluetooth対応機器を消去する…… 92
携帯電話を利用する…… 93
通話中の画面…… 93
番号を入力して電話をかける…… 94
発着信履歴からかける…… 94
発着信履歴を消去する…… 95
電話帳を登録する…… 95
電話帳から電話をかける…… 96
電話帳のデータを消去する…… 96
施設情報から電話をかける…… 96
短縮ダイヤルを登録する…… 96
短縮ダイヤルから電話をかける…… 97
短縮ダイヤルの編集をする…… 97
短縮ダイヤルを消去する…… 97
電話を受ける…… 98
電話の設定をする…… 98
通話音量と着信音の設定をする…… 98
Bluetooth機能のON/OFFを切り替える …… 98
パスキー・デバイス名称を変更する…… 99
電話のメモリをすべて消去する…… 99
Siri Eyes Free機能を使う …… 99
表示画面を切り替える…… 100

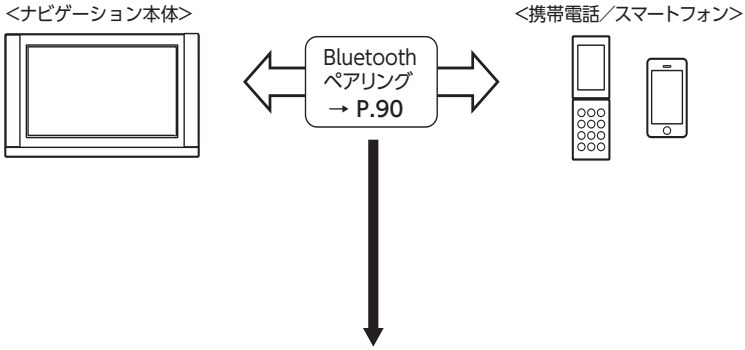
通信を利用してできること

Bluetooth対応携帯電話を利用すると、ハンズフリーで通話するなど、便利な機能を利用できます。

準 備

●以下の設定を行います。

- 携帯電話を本機に登録（ペアリング）→ P.90



電話をする → P.93
Bluetoothオーディオを聴く → P.145
Intelligent VOICEを利用する → P.48
NaviConを利用する → P.54
QQコールを利用する → P.178

Bluetooth対応機器を登録する

準備

●本機のBluetooth機能をONにします。
→ P.98

携帯電話などのBluetooth対応機器を登録して、本機から電話の発着信やオーディオを再生できます。
Bluetooth対応携帯電話を用いるとケーブルを接続することなく、Bluetoothを利用したハンズフリー機能を使用できます。
この操作は、電話メニュー画面およびBluetooth設定画面から行います。
Bluetooth対応携帯電話の対応機種や設定方法については、以下のインターナビのWebサイトをご覧ください。
http://www.honda.co.jp/internavi/

MENU ▶▶ 電話 ▶▶

電話メニュー画面

MENU ▶▶ 設定 ▶▶
Bluetooth ▶▶

Bluetooth設定画面

※走行中はタッチできる項目が限定されます。

Bluetooth（ブルートゥース）とは

Bluetoothとは、産業団体Bluetooth SIGにより提唱されている携帯情報機器向けの短距離無線通信技術です。2.4GHz帯の電波を利用してBluetooth対応機器どうしで通信を行います。
本機では、Bluetoothに対応した携帯電話およびオーディオ機器を接続して利用できます。
Bluetooth対応機器を利用するには、本機に登録（ペアリング）する必要があります。→ P.90

本機は、以下のBluetoothプロファイルに対応しています。

ハンズフリー通話
HFP（Hands-Free Profile：ハンズフリープロファイル）

電話帳転送
OPP（Object Push Profile：オブジェクトプッシュプロファイル）

電話帳転送および通話履歴等の同期
PBAP（Phone Book Access Profile：フォーンブックアクセスプロファイル）

オーディオ
A2DP（Advanced Audio Distribution Profile：高度オーディオ配信プロファイル）、AVRCP（Audio/Video Remote Control Profile：オーディオ/ビデオリモート制御プロファイル）

Smart Access 4Carアプリ連携
SPP（Serial Port Profile：シリアルポートプロファイル）

※Bluetoothプロファイルに対応している機器であっても、相手機器の特性や仕様によっては接続できなかったり、表示や動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。

Bluetoothハンズフリーのマルチポイント接続でできること

Bluetooth接続の携帯電話を以下のように使用できます。
●携帯電話2台を待ち受けとして使用可能

※携帯電話2台を使用した同時通話は、不可（2台を待ち受けとした場合は、先に発着信した側のみで通話が可能）

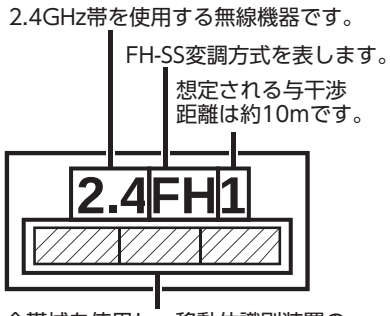
— MEMO
- 本機では、Bluetooth対応携帯電話（ハンズフリー）とBluetoothオーディオ機器を同時に使用できます。ただし、音声についてはハンズフリーを優先します。
- 携帯電話およびオーディオ機器は、Bluetooth方式に対応しているものを使用してください。ただし、携帯電話、オーディオ機器の種類によっては、ご利用になれない場合やご利用いただける機能に制限がある場合があります。
- Bluetooth対応機器の収納場所、本機との距離によっては、接続できない場合があります。本機とBluetooth対応機器との間に障害物がないようにして、ご使用ください。
- Bluetooth対応機器について詳しくは、各取扱説明書をご覧ください。

Bluetooth機器の取り扱いについて

Bluetooth機器を使用される前にお読みください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される移動体識別用構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、アマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機能を使用する前に、近くで移動体識別用構内無線局および、特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を移動するか、または電波の発射を停止し、電波干渉を避けてください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、お買い求めのHonda販売店、または（株）ホンダアクセスお客様相談室までご連絡ください。



Bluetooth対応機器を登録する（ペアリング）

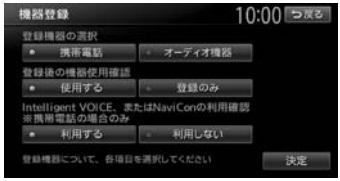
はじめてBluetooth対応機器を利用するときは、本機に登録（ペアリング）してください。

— お知らせ
- 走行中はペアリングを実行できません。
- あらかじめ機器側でもBluetooth機能をONに設定しないと、ペアリングできない場合があります。詳しくはBluetooth対応機器の取扱説明書をご覧ください。

1 MENU ▶ 設定 ▶ Bluetooth

2 機器登録

3 各項目を選択



登録機器の選択：
ペアリングするBluetooth対応機器が携帯電話か、オーディオ機器かを選択する。「オーディオ機器」を選択すると、「Intelligent VOICE、またはNaviConの利用確認」は選択できません。

登録後の機器使用確認：
ペアリングしたBluetooth対応機器を使用するかどうかを選択する。「登録のみ」を選択すると、「Intelligent VOICE、またはNaviConの利用確認」は選択できません。

Intelligent VOICE、またはNaviConの利用確認※携帯電話の場合のみ：

ペアリングした携帯電話を使って、Intelligent VOICEやNaviConを利用するかどうかを選択する。

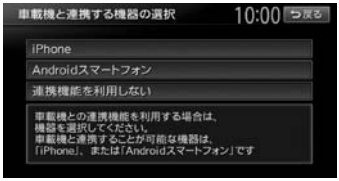
「利用する」を選択すると、ハンズフリー電話、Intelligent VOICEおよびNaviConが利用できます。→ P.48「Intelligent VOICEを利用する」、
→ P.54「NaviConアプリケーションを利用する」

「利用しない」を選択すると、ハンズフリー電話としてのみ利用できます。

4 決定

「Intelligent VOICE、またはNaviConの利用確認」で 利用する を選択した場合は、手順5に進みます。 利用しない を選択した場合は、手順6に進みます。

5 本機と連携する機器を選択



iPhone：

iPhoneを使ったスマートフォンアプリ機能（Intelligent VOICEまたはNaviCon）を利用する場合に選択する。

Androidスマートフォン：

Android搭載機を使ったスマートフォンアプリ機能を利用する場合に選択する。

連携機能を利用しない：

スマートフォンアプリ機能を利用しないときに選択する。

ハンズフリー電話としてのみ利用できます。

6 Bluetooth対応機器から「Gathers」（初期値）を選択し、パスキー「1212」(初期値)を入力

— MEMO —

- Bluetooth対応機器の機種によっては、パスキー入力は不要です。また、機種によっては、本機に入力したパスキーが機器側のパスキーと同一か、確認する画面が表示されます。登録を行う場合は、画面にしたがって操作してください。
- 携帯電話以外のBluetoothオーディオ機器を登録する場合は、「オーディオ機器」を選択後、決定 をタッチしてからパスキー「例：1212」を入力してください。

Bluetooth対応機器から本機の探索を行い、ペアリングが完了します。

— お知らせ —

- ペアリング完了後、携帯機器の設定画面の「Bluetoothで接続」がONに切り替わります。Bluetooth機能を使用する際は、本設定がONであることを確認してください。
- ハンズフリー中（発信、着信、通話）は、ほかのBluetooth対応機器の接続(通話、通信)やペアリングはできません。また、ハンズフリー中は、オーディオ音声は出力されません。
- Bluetooth対応機器は、5台までペアリングできます。6台目をペアリングするには、すでに登録されたBluetooth対応機器の情報を消去してください。→ P.92
- すでに携帯電話を接続した状態でペアリングを行った場合は、接続を解除し、最後にペアリングした携帯電話と接続します。
- Bluetooth対応機器が「接続待機中」設定時や待ち受け状態のときは、自動的に接続されます。上記以外の場合は、自動的に接続されないことがあります。詳しくは機器の取扱説明書をご覧ください。

— MEMO —

- ペアリング完了後、Bluetooth対応機器上で接続確認の操作が必要な場合があります。
- ペアリング完了後、携帯電話上で接続するプロファイルの選択が必要な場合は、「ハンズフリー」を選択してください。また、同時にオーディオプレーヤーを使用する場合は、「オーディオ」も選択してください。
- Bluetooth対応機器側の操作について詳しくは、機器の取扱説明書をご覧ください。

- 本機のBluetooth対応機器の受信感度、電池残量の表示は、接続する機器によっては、数値が一致しない場合があります。
- デバイス名、パスキーは変更可能です。
- Bluetooth対応機器と距離が離れているなど、何らかの理由で接続が切断された場合に、自動的に再接続を試みます。
- Bluetooth対応機器を再起動した場合、機器の種類によって、自動的に接続されない場合があります。自動接続されない場合はBluetooth設定画面の 接続機器の選択 をタッチしてリストから接続したいBluetooth対応機器を選択してください。→ P.92

接続するBluetooth対応機器を切り替える

本機に複数のBluetooth対応機器が登録されている場合に、接続する機器を切り替えられます。

お知らせ
- Bluetooth対応機器は、5台までペアリング可能ですが、接続できるのは2台までです。

1 MENU ▶ 設定 ▶ Bluetooth

2 接続機器の選択

3 接続機器1 **または** 接続機器2

接続機器1：
メインのBluetooth対応機器を指定する。ハンズフリー電話、およびBluetoothオーディオとして利用します。また、スマートフォンアプリも利用できます。

接続機器2：
サブのBluetooth対応機器を指定する。ハンズフリー電話のみ、またはBluetoothオーディオとして利用します。
メインのBluetooth対応機器でスマートフォンアプリを利用しながら、サブのBluetooth対応機器でハンズフリー電話やBluetoothオーディオが利用できます。

4 **切り替える機器を選択**

MEMO
- 手順3で 接続機器1 を選択した場合、切り替える機器を選択後、スマートフォン連携で使用する機器の種類を選択する画面が表示されます。→ P.91の手順「本機と連携する機器を選択」

5 決定

MEMO
- 現在使用中の携帯電話の切り替えを行うと、短縮ダイヤル・発着信履歴などの機器情報も選択した機器の情報に切り替わります。

登録したBluetooth対応機器を消去する

ペアリング済みのBluetooth対応機器の情報を消去します。

1 MENU ▶ 設定 ▶ Bluetooth

2 機器の消去

3 **消去したい機器を選択**

4 消去する

5 はい

お知らせ
- 携帯電話の登録情報を消去すると、該当する携帯電話の発着信履歴、短縮ダイヤル、電話帳情報も消去されます。
- Bluetooth対応機器の登録情報を消去している最中に本機の電源を切ると、消去できない場合があります。その場合は電源を入れ、再度消去の操作を行ってください。

携帯電話を利用する

お願い

- 携帯電話を車室内に放置しないでください。炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。

MEMO

- 同時に2台の携帯電話を接続しているときは、電話メニュー画面に表示されている機器名称をタッチして、使用する電話を切り替えられます。

通話中の画面

通話中は、以下のような画面が表示されます。

通話中画面

通話を終了します。

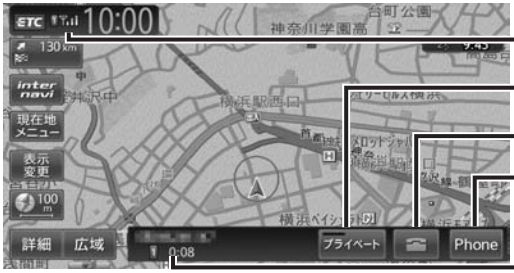
携帯電話本体での通話に切り替わります。ご使用の携帯電話によっては、プライベート動作にならない場合があります。

送話音声がミュート状態になります。

番号入力画面が表示され、通話中にパスワードなどの数字を入力できます。

通話中に 現在地 を押すと、以下のような画面になります。この画面のまま、目的地検索などの操作も行えます。

通話中地図画面



携帯電話の受信感度が表示されます。

携帯電話本体での通話に切り替わります。

電話を切り現在地が表示されます。

電話コントロールバーの表示／非表示を切り替えます。

通話時間、相手先の名前、または電話番号が表示されます。

お知らせ

- 携帯電話の機種によっては、通話中に第三者から着信があった場合は、自動的に着信を拒否します。その際の着信履歴は保存されません。
- 通話中に車が携帯電話のサービス圏外（電波が届かないところ）に移動したときは回線が切れます。
- ハンズフリーで通話中は、オーディオソースの選択切り替えができません。
- 携帯電話が待ち受け状態でないと、発着信できない場合があります。

番号を入力して電話をかける

⚠ 注意

- **走行中は、電話番号を入力して電話をかけることはできません。必ず車を安全な場所に停車させてから行ってください。**

MEMO

- 携帯電話によっては、ダイヤル発信後、発信中の電話を切った場合、すぐに再発信できないことがあります。しばらくしてから、ダイヤル発信を行ってください。

1 MENU ▶ 電話

2 ダイヤル入力

3 **電話番号を市外局番から入力**

4 電話をかける

電話番号が発信され、相手を呼び出します。

電話を切る：
呼び出し途中にタッチして、電話を切る。

5 **通話を終了する場合は** 電話を切る

電話を切り、電話をかける前の画面に戻ります。
発信した電話番号、名称（電話帳に登録されている場合）、発信日時が発信履歴として保存されます。同一電話番号の場合、最新の履歴のみが表示されます。

発着信履歴からかける

1 MENU ▶ 電話

2 発着信履歴

3 着信履歴 **または** 発信履歴

4 **ダイヤルしたい相手先を選択**

着信履歴／発信履歴：
リストに表示する履歴を切り替える。

5 電話をかける

登録されている電話番号が発信され、電話がかかります。

お知らせ

- 非通知着信時の着信履歴からは電話をかけられません。

MEMO

- 発着信の履歴は、本機に記録された最新の5件が表示されます。
- 同一電話番号を異なる名称で短縮ダイヤルと電話帳に登録している場合、短縮ダイヤルの情報を優先して履歴が表示されます。
- 短縮ダイヤル、または、電話帳に登録されている電話番号の場合、登録している名称が表示されます。

発着信履歴を消去する

1 MENU ▶ 設定

2 電話 ▶ メモリ消去

3 発着信履歴

4 **消去する方法を選択**

一括消去：
すべての発着信履歴を消去する。

履歴ごとに消去：
発信履歴、または着信履歴をすべて消去する。

1件消去：
選択した1件の発着信履歴を消去する。発着信履歴リストから消去したい履歴を選択し、消去する をタッチしてください。

5 はい
選択した履歴が消去されます。

電話帳を登録する

あらかじめ携帯電話の電話帳を本機に登録しておき、本機から電話をかけられます。
携帯電話の電話帳は、携帯電話側の電話帳転送機能を使用して登録します。携帯電話によっては、電話帳を転送できないものがあります。
詳しくは携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

— MEMO —
- 電話帳を転送後、携帯電話の接続が切断される場合があります。その場合は、再度、電話機選択画面から接続したい携帯電話を選択してください。

1 MENU ▶ 設定

2 電話 ▶ ハンズフリー電話帳

3 携帯メモリ一括ダウンロード ▶ はい
または
携帯メモリ追加ダウンロード ▶ はい
電話帳転送の待ち受け画面になります。

携帯メモリ一括ダウンロード：
Bluetooth対応携帯電話から電話帳データを送信し、本機の電話帳データに上書き保存する。
前回ダウンロードしたデータは上書きされるため、利用できなくなります。

携帯メモリ追加ダウンロード：
Bluetooth対応携帯電話から電話帳データを送信し、本機の電話帳データに追加保存する。
前回ダウンロードしたデータは上書きされずに利用可能です。

ダウンロード済みリスト：
転送後の電話帳のリスト画面を表示する。登録された電話番号は短縮ダイヤルへ登録、または消去できます。→ P.96

4 **携帯電話から電話帳転送**
電話機選択画面で現在選択されている携帯電話の電話帳が本機に転送されます。
追加ダウンロード完了時には、キャンセル をタッチして登録作業を終了してください。

— お知らせ —
- 電話帳の転送は、同一の電話番号でも常に追加で登録され上書きされません。必要に応じて電話番号を消去してください。

— MEMO —
- 登録可能な電話帳データは、携帯電話1台あたり1000件です。
- 電話帳の1つの名称に対して、最大5件の電話番号を表示できます。
- 電話番号リストに表示されるアイコンには以下の種類があります。
  （携帯電話）／（一般電話）／（自宅）／（会社）／（その他）
- 転送した電話帳の表示順序は、携帯電話で表示される順序とは異なります。読みがなで並べ替えるので、ダイヤルの際は発信する相手の電話番号をご確認ください。

電話帳から電話をかける

1 MENU ▶ 電話

2 ハンズフリー電話帳

3 名前を選択

4 電話番号を選択

5 電話をかける

登録されている電話番号が発信され、電話がかかります。

MEMO

- 電話帳を登録する方法は、「電話帳を登録する」をご覧ください。→ P.95

電話帳のデータを消去する

1 MENU ▶ 設定

2 電話 ▶ メモリ消去

3 ハンズフリー電話帳

4 消去する方法を選択

一括消去：
電話帳データを一括消去する。

1件消去：
選択した1件の電話帳データを消去する。
電話帳リストから消去したいデータを選択し、消去する をタッチしてください。

5 はい

選択した電話帳データが消去されます。

施設情報から電話をかける

施設情報画面に 電話をかける が表示されている場合、Bluetooth対応携帯電話を接続すると画面から電話をかけられます。

1 施設情報画面で 電話をかける

登録されている電話番号が発信され、電話がかかります。

短縮ダイヤルを登録する

本機に短縮ダイヤルを登録すれば、簡単に電話をかけられます。

1 MENU ▶ 設定

2 電話 ▶ 短縮ダイヤル登録・編集

3 新規登録

4 登録する方法を選択

発着信履歴から登録：
発着信履歴リストから登録したい電話番号を選択する。

ハンズフリー電話帳から登録：
電話帳から登録したい電話番号を選択する。

入力して登録：
登録したい電話番号を直接入力する。
入力後は、決定 をタッチしてください。

5 **登録情報を確認**

短縮ダイヤルの登録番号、名称、電話番号、アイコンの種類は編集できます。それぞれの項目をタッチし、希望の設定値を入力してください。短縮ダイヤル登録後に編集することもできます。

6 決定

短縮ダイヤルが登録されます。

MEMO

- 短縮ダイヤルの最大登録件数は携帯電話1台につき5件です。

短縮ダイヤルから電話をかける

1 MENU ▶ 電話

2 短縮ダイヤル

3 **ダイヤルしたい相手先を選択**

4 電話をかける

登録されている短縮ダイヤルが発信され、電話がかかります。

短縮ダイヤルの編集をする

登録済みの短縮ダイヤルの編集をします。

1 MENU ▶ 設定

2 電話 ▶ 短縮ダイヤル登録・編集

3 **編集したい短縮ダイヤルを選択**

4 編集する

編集したい項目を選択し、希望の設定値を入力してください。

5 決定

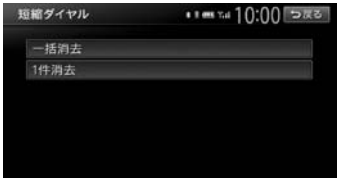
短縮ダイヤルを消去する

1 MENU ▶ 設定

2 電話 ▶ メモリ消去

3 短縮ダイヤル

4 **消去する方法を選択**



一括消去：
すべての短縮ダイヤルを消去する。

1件消去：
選択した1件の短縮ダイヤルを消去する。短縮ダイヤルリストから消去したい短縮ダイヤルを選択し、消去する をタッチしてください。

5 はい

選択した短縮ダイヤルが消去されます。

電話を受ける

本機に接続した携帯電話が着信すると、着信画面が表示されます。

⚠ 注意

• 走行中に電話を受けるときは、必ず周りの安全を十分に確認してください。

1 電話がかかってきたら 電話に出る

着信拒否する：
着信中にタッチして着信を拒否する。

保留する：
応答を保留する。
保留を解除する場合は、電話に出る をタッチします。
通話を終了したい場合は、電話を切る をタッチします。電話を切り、着信直前の画面に戻ります。

着信した電話番号、名称（短縮ダイヤル、電話帳に登録されている場合）、着信日時が着信履歴として保存されます。

電話の設定をする

通話音量と着信音の設定をする

1 MENU ▶ 設定
2 電話 ▶ 音量調整

3 各項目を設定

着信音量：
着信音量をレベル1 ～ 16に設定する。(初期値：レベル4)

受話音量：
受話音量をレベル1 ～ 16に設定する。(初期値：レベル4)

送話音量：
送話音量をレベル1 ～ 5に設定する。(初期値：レベル3)

自動応答保留：
電話着信時の2秒後に電話をつなぎ、保留状態にする。(初期値：OFF)

車載機の着信音使用：
本機からの着信音を使用するかどうかを選択する。(初期値：OFF)

— お知らせ —

• 車両のスマートパーキングアシストシステム（駐車時に音声で案内する機能）が作動中の場合でも、通話音量および着信音量は調整できます。

— MEMO —

• 着信中、または通話中に、▲ ▼ を操作しても、音量を調整できます。
• 通話中に音量を調整した場合、ほかのオーディオソースに切り替えて音量を変更しても、次回電話を受発信したときは通話中に調整した音量で通話できます。

Bluetooth機能のON/OFFを切り替える

携帯電話によっては、携帯電話側の問題で通信異常が発生し、操作が正常にできなかったり、表示されないことがあります。その場合は、Bluetooth機能のOFF→ON切り替えを行ってください。(初期値：OFF)

MEMO
- 携帯電話のBluetooth機能をOFF→ONに切り替える際には、本機のBluetooth機能もOFF→ONに切り替えてください。
- Bluetooth機能をOFFにすると、本機でBluetooth機能を操作できません。また、Bluetooth対応携帯電話から本機への接続や操作もできなくなります。

1 MENU ▶ 設定 ▶ Bluetooth
2 Bluetoothで接続

パスキー・デバイス名称を変更する

Bluetoothの設定の中で、扱いを別にしたいときなどに、パスキーとデバイス名称を変更できます。(初期値：パスキー「1212」、デバイス名「Gathers」)

1 MENU ▶ 設定 ▶ Bluetooth
2 車載機のBluetooth情報・変更
3 パスキー または デバイス名
4 新しいパスキー、または名称を入力
5 決定

お知らせ
- デバイスアドレスは変更できません。

電話のメモリをすべて消去する

1 MENU ▶ 設定
2 電話 ▶ メモリ消去
3 メモリ全消去
4 はい
短縮ダイヤル、電話帳および発着信履歴のすべてのデータが消去されます。

Siri Eyes Free機能を使う

Siri Eyes Freeは、iPhoneと本機をBluetoothで接続し、車載のマイクとスピーカーによって、音声アシスタント機能『Siri®』を利用する機能です。
Siri Eyes Free機能により、iPhoneを手で操作することなく運転中も安全にSiriを利用できます。
Siriとは、iPhoneを音声で操作できる機能です。

お知らせ
- Siri Eyes Free、SiriはiPhone 5s、iPhone 5c、iPhone 5、iPhone 4sでご利用になれます。また、iOS®6.1以降をご利用ください。

準備
- ●付属の外付けマイクの接続が必要です。
- ●iPhoneを本機に登録（ペアリング）します。→ P.90
- ●iPhoneのSiri機能をONにします。詳しくはiPhoneの取扱説明書等をご覧ください。

1 AUDIO を長押し、またはオーディオリモコンスイッチ（別売）の MODE を長押し
Smartphone VR画面が表示されます。

MEMO
- 車両によっては、オーディオリモコンスイッチ（別売）の SOURCE を長押ししてください。
- 同時に2台の携帯電話を接続している場合、使用機器として選択したiPhoneのみ、本機の操作によりSiri機能を起動できます。

2 マイクに発話する

iPhoneのSiri機能が動作します。
続けてSiri機能を動作させるには、発話キー、AUDIO、またはオーディオリモコンスイッチ（別売）の MODE を押してから、マイクに発話してください。

Siriを終了するには、以下のいずれかを行います。

- Smartphone VR画面の 終了 をタッチ
- AUDIO を長押し
- オーディオリモコンスイッチ（別売）の MODE を長押し

MEMO

- 走行中などの使用状況によっては、iPhoneが音声を認識できない場合があります。
  例：高速走行時や窓があいている場合、エアコンの風量設定が大きい場合など、周囲の騒音が大きい環境の場合
- 携帯電話の電波が届きにくいところでは、Siriが適切に機能しなかったり、応答に時間がかかることがあります。
- 車両の電源が「OFF」のときにiPhoneでSiri機能を起動し、その後車両の電源を「ACC」、または「ON」にすると、本機のSmartphone VR画面が表示されない場合があります。その場合はSiri機能をいったん終了し、再度起動させてください。
- Siri起動中であっても、iPhone側の動作状態によっては、Siriが適切に機能しなかったり、Siriモードが終了してしまうことがあります。
- Siri起動中は、各種オーディオ機能を操作できません。
- Siri機能を使ってiPhoneのオーディオを再生した場合は、自動的にSiri機能を終了して、本機のBluetoothオーディオモードに切り替わります。
- iPhoneのオーディオ再生中にSiri機能を使って楽曲再生を指示した場合、オーディオモードはBluetoothには切り替わらず、iPodモードで再生します。
- iPhoneをUSB接続した状態でオーディオが「OFF」の場合、Siri機能を使って楽曲再生指示を行っても、オーディオは「OFF」のままで楽曲再生は行いません。
- Bluetoothオーディオ再生開始時、iPhoneが読み上げた楽曲名と再生される楽曲が一致しない場合があります。
- iPodオーディオを聴いている場合は、Siriが適切に機能しなかったり、Siriモードが終了してしまうことがあります。
- iOSのバージョンによっては、Siriの終了に時間がかかる場合があります。

表示画面を切り替える

Siri起動中でも 現在地 や MENU を押すことで、Smartphone VR画面から地図画面やメニュー画面に切り替えることができます。地図画面やメニュー画面でもSiri機能はご利用になれます。
メニュー画面からSmartphone VR画面に戻るには、Smartphone VR をタッチします。

メニュー画面

Smartphone VR画面に戻ります。

オーディオ・ビジュアルを楽しむ

本機では、ラジオ、テレビ、DVDなど、視聴したい音源や映像を選んでお楽しみいただけます。詳しい操作方法は、各ソースのページをご覧ください。

オーディオ・ビジュアルの基本的な使いかた …… 102
ディスクやSDカードの出し入れ …… 102
ソース選択画面を表示する …… 103
オーディオの音量を調整する …… 103
表示画面を切り替える …… 104
オーディオをON/OFFする …… 104
ラジオを聴く …… 105
ラジオを受信する …… 105
ラジオ受信中の操作 …… 105
ラジオのプリセットチャンネルリストを利用する …… 106
ラジオの放送局リストを利用する …… 107
ラジオの設定をする …… 108
テレビを見る …… 108
地上デジタル放送とは …… 108
テレビを見る前に …… 109
はじめてテレビを見るときは …… 111
テレビの選局をする …… 111
テレビのプリセットチャンネルリストを利用する …… 113
テレビの便利な機能を利用する …… 115
地上デジタル放送の設定をする …… 116
DVDを見る …… 120
DVDを再生する …… 120
DVD再生時の操作 …… 121
DVDの設定をする …… 123
DVDビデオの初期設定を変更する …… 125
CD、ディスク(MP3・WMA・AAC)の音楽を聴く … 127
CDを再生する …… 127
MP3・WMA・AACのディスクを再生する …… 128
ディスク再生時の操作 …… 128
Music Rackを使う …… 129
Music Rackに録音する …… 129
Music Rackを再生する …… 131
Music Rack再生時の操作 …… 132
アルバム・トラック情報を編集する …… 133
アルバム情報を更新する …… 134
SDカード・USBメモリーの音楽を聴く／ビデオを見る …… 135
SDカードを再生する …… 135
USBメモリーを再生する …… 135
SDカード・USBメモリー再生時の操作 …… 135
SDカード・USBメモリーの設定をする …… 137
iPodミュージックを聴く／iPodビデオを見る …… 139
接続できるiPod …… 140
iPodミュージックを再生する …… 141
iPodビデオを再生する …… 141
iPod再生時の操作 …… 142
iPodの設定をする …… 143
Bluetoothオーディオを聴く …… 145
Bluetoothオーディオを再生する …… 145
Bluetoothオーディオ再生時の操作 …… 145

オーディオ・ビジュアルの基本的な使いかた

ディスクやSDカードの出し入れ

オーディオ・ビジュアルのデータをお楽しみいただくには、ディスク、またはSDカードを本機にセットします。
また、Music Rackを利用するときも、本機にSDカードをセットします。→ P.129

⚠ 警告

- **ディスクやSDカードは挿入口から出た状態のままにせず、完全に挿入するか、または取り出してください。**

❗ お願い

- ディスクの記録面（光沢のある面）には触れないでください。
- SDカードの端子面には触れないでください。

ディスクの入れかた

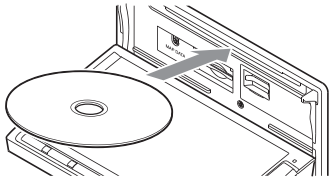
❗ お願い

- ディスクを2枚重ねて挿入しないでください。重ねて挿入した場合、ディスクをパネルではさみ込んでしまうことがあります。

1 ⏏ ▶ パネル開／閉
操作パネルが開きます。

ディスクがセットされている場合、「DISC IN」部分が明るく表示されます。

2 ディスクのレーベル面を上にして、挿入口に差し込む



ディスクが取り込まれ、操作パネルが自動的に閉じます。しばらくすると、ディスクの再生がはじまります。

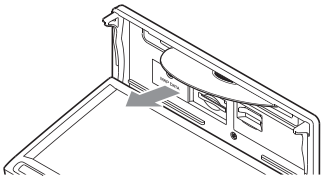
— お知らせ —

- ある程度差し込むと、ディスクは自動的に取り込まれます。ディスクが取り込まれない場合は、すでにディスクがセットされています。ディスクを無理やり挿入せず、セットされたディスクを取り出してから、ディスクを挿入してください。

ディスクの取り出しかた

1 ⏏ ▶ ディスク排出
操作パネルが開き、ディスクが排出されます。

2 ディスクを取り出す



3 ⏏ または パネル開／閉
操作パネルが閉まります。

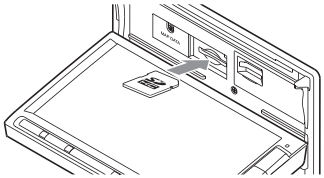
— MEMO —

- ⏏ を長押ししても、ディスクを排出できます。
- ディスクを取り出さないまま、しばらくすると、自動的にディスクが取り込まれ、操作パネルが閉じます。

SDカードの入れかた

1 ⏏ ▶ パネル開／閉
操作パネルが開きます。

2 **SDカードのラベル面を上にして、挿入口に差し込む**



お願い
- カチッと音がするまで、SDカードを奥にしっかりと差し込んでください。

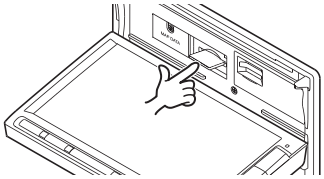
3 ⏏ **または** パネル開／閉
操作パネルが閉まります。

お知らせ
- SDカードが正しく差し込まれていないと、操作パネルを閉じることはできません。

SDカードの取り出しかた

1 ⏏ ▶ パネル開／閉
操作パネルが開きます。

2 **SDカードを押す**



SDカードが少し飛び出します。

3 **SDカードを取り出す**

4 ⏏ **または** パネル開／閉
操作パネルが閉まります。

お願い
- SDカードを取り出すときは、指でSDカードをしっかりつまんでください。SDカードが飛び出すおそれがあります。

ソース選択画面を表示する

1 **(オーディオONの場合)**
オーディオ画面で AUDIO
(オーディオ画面以外では AUDIO **を2回押す)**
(オーディオOFFの場合)
AUDIO

2 **お好みのソースを選択**

※別売のVTRコード接続時の画面です。

以降の操作について詳しくは、各ソースのページをご覧ください。

オーディオの音量を調整する

1 ▲ **または** ▼

お知らせ
- 車両のスマートパーキングアシストシステム（駐車時に音声で案内する機能）が作動中の場合、オーディオの音声がミュートされるため、音量は調整できません。

MEMO
- ▲ または ▼ を長押しすると、連続して音量が変化します。

表示画面を切り替える

オーディオ・ビジュアルの画面には、各オーディオ専用の画面と地図画面の2種類の表示があります。オーディオ画面と地図画面は以下の手順で切り替えられます。

オーディオ画面に切り替える

1 AUDIO

選択したソースのオーディオ画面が表示されます。

※画面はラジオの場合です。

地図画面に切り替える

1 現在地

地図画面が表示されます。

※画面はラジオの場合です。

オーディオをON/OFFする

ONにする

1 ⏻、または **AVコントロールバー表示キーをタッチ**

地図画面では、OFFにする前に使っていたオーディオ機能がONになります。

オーディオ画面では、OFFにする前に使っていたオーディオ画面に戻り、オーディオ機能がONになります。

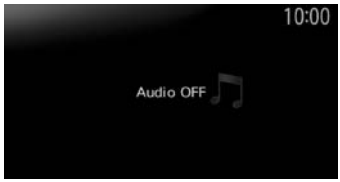
MEMO

- ソース選択画面でソースを選択、またはディスクを挿入しても、オーディオをONにできます。

OFFにする

1 [⏻]、または
ソース選択画面で Audio OFF
地図画面ではAVコントロールバー表示キーの表示が「Audio OFF」になります。

オーディオ画面ではAudio OFF画面になります。



MEMO
- オーディオをOFFにしたときも、ナビゲーションの音声案内は出力されます。

ラジオを聴く

本機では、FMラジオ・AMラジオをお楽しみいただけます。

ラジオを受信する

1 **ソース選択画面で** FM/AM
ラジオが受信されます。

ラジオ受信中の操作

AM/FMを切り替える

1 **ソース選択画面で** FM/AM

2 FM/AM
タッチするたびに、AMラジオとFMラジオが切り替わります。

MEMO
- 自宅モードの場合、「FM1」→「FM2」→「AM」→「FM1」…の順で切り替わります。お出かけモードの場合、「FM（お出かけ）」と「AM（お出かけ）」が交互に切り替わります。

手動でラジオの放送局を選ぶ

1 **ソース選択画面で** FM/AM

2 [⏮] または [⏭]
周波数が切り替わります。

MEMO
- [⏮]、[⏭] を長押しすると、周波数が連続して切り替わります。

リストから選局する

登録した放送局を、リストから選局します。

1 **ソース選択画面で** FM/AM

2 **目的の放送局を選択**
選択した放送局が受信されます。

— MEMO
- AVコントロールバーの 前P.CH または 次P.CH をタッチして、放送局を切り替えられます。

ラジオのプリセットチャンネルリストを利用する

プリセットチャンネルとは

走行中のエリアで受信可能な放送局の周波数を登録（プリセット）できるチャンネルです。ワンタッチでお好みの放送局を受信できます。
プリセットチャンネルリストは、自宅モードにFM1/FM2/AMの3種類、お出かけモードにFM/AMの2種類があります。登録できる放送局は、それぞれのリストで6局までです。
プリセットチャンネルへの登録方法は、手動と自動の2種類があります。

プリセットチャンネルリスト

■ リストに「重複」と表示されるときは

同一周波数内で、異なる放送局名が存在するときは、リストに「重複」と表示されます。
「重複」と表示されている放送局を受信中に、そのチャンネルリストをタッチすると、表示されている放送局名を切り替えられます。

受信バンドを活用する

地域別のプリセットチャンネルを「自宅」、「お出かけ」にそれぞれ設定することで、受信バンドをワンタッチで切り替えて利用できます。
たとえば東京にお住まいで、よく大阪に出かけられる場合は、「自宅」に東京、「お出かけ」に大阪の放送局を登録します。すると、お出かけ時にもワンタッチでお好みの放送局を受信できます。

1 **ソース選択画面で** FM/AM

2 お出かけ
プリセットチャンネルリストの表示が切り替わります。
お出かけモード選択時には、お出かけキーがONになります。自宅モード選択時にはお出かけキーがOFFになります。

— MEMO
- 地域によっては、実際とは異なる放送局名がリストに表示される場合があります。

リストに自動で登録する（オートプリセット）

1 **ソース選択画面で** FM/AM

2 メニュー ▶ オートプリセット
受信可能な放送局が、現在のプリセットチャンネルに上書き登録されます。
キャンセル：
オートプリセットを中止する。

— お知らせ
- 本操作中は、放送局を選択できません。終了するまでお待ちください。
- オートプリセットを途中で停止させた場合、それまでに受信した放送局は登録されません。

リストに手動で登録する

1 **ソース選択画面で** FM/AM

2 **登録したい放送局を受信**

3 **プリセットチャンネルリスト内の上書きをするチャンネルを、「ピーッ」という音がするまで長押し**

受信中の放送局が、そのチャンネルに上書き登録されます。

ラジオの放送局リストを利用する

放送局リストとは

走行中のエリアで受信可能な放送局の周波数を表示できるリストです。受信可能な放送局リストからお好みの放送局を選択して受信できます。
FM/AMそれぞれ最大50局表示できます。
放送局リストは リスト更新 をタッチすることで更新できます。

— お知らせ
- 地域によっては、実際とは異なる放送局名がリストに表示される場合があります。

放送局リストから選局する

1 **ソース選択画面で** FM/AM

2 放送局リスト

3 **目的の項目を選択**
選択した放送局が受信されます。

放送局リストを更新する

— お知らせ
- 本操作中は、放送局を選択できません。終了するまでお待ちください。
- リスト更新を途中で停止させた場合、その時点で受信した放送局が表示されます。

1 **ソース選択画面で** FM/AM

2 放送局リスト ▶ リスト更新
地域選択で設定している地域の周波数に合わせた放送局名が表示されます。
キャンセル：
リスト更新を中止する。

■ 放送局リストの自動更新について

他のソースを選択している場合や、オーディオOFFの場合は、放送局リストが自動で更新されます。自動更新はFM局にのみ実行されます。
放送局リストの自動更新設定は、以下の方法で切り替えます。（初期値：ON）

1 **ソース選択画面で** FM/AM

2 メニュー ▶ 放送局リストの自動更新
タッチするたびに放送局リストの自動更新のON/OFFが切り替わります。

— MEMO
- 自動更新中にラジオを受信したり、車両の電源をOFFにした場合は、自動更新は中断され、前回の更新結果に戻ります。

ラジオの設定をする

ラジオの受信地域を選択する

受信地域を正しく設定することで、受信中の放送局名を自動的に表示できます。自宅モードとお出かけモードでそれぞれ地域を設定できます。

お知らせ
- 走行中は本操作を行えません。

1 **ソース選択画面で** FM/AM

2 メニュー ▶ 地域選択

3 **地域を選択**

オート：
自車位置に応じた地域の放送局を表示する。

4 戻る
受信地域が切り替わります。

テレビを見る

本機では、地上デジタル放送をお楽しみいただけます。

⚠ 警告

- **運転者がテレビを見るときは、必ず安全な場所に停車させてください。**
- **本機は安全のため、停車時のみテレビの映像をご覧いただけます。走行中は、音声のみお楽しみいただけます。**

MEMO
- 本機は地上デジタル12セグ放送と1セグ放送の自動切り替えができます。12セグ放送の受信状態が悪化したときに、自動的に1セグ放送に切り替えられます。→ P.116
- テレビ受信中の音量は、ラジオ、DVDなどに切り替えて音量を変えても、次回テレビを受信したときに元の音量で見られます。
- テレビ受信時に（主に弱電界）画像が乱れることがありますが、故障ではありません。また画像が一時止まる場合がありますが、デジタル処理によるもので故障ではありません。

準備

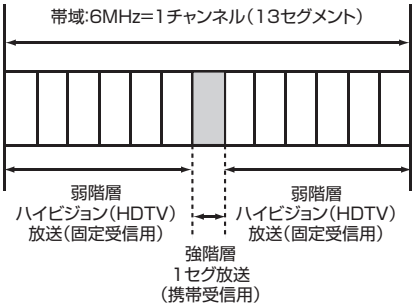
●テレビを受信するには、受信用アンテナが必要です。

地上デジタル放送とは

地上波のUHF帯を使用したデジタル放送です。高品質の映像と音声、さらにデータ放送が特長です。本機では、1セグ／ 12セグの地上デジタル放送を楽しめます。

12セグと1セグについて

日本の地上デジタル放送は、UHF帯域の電波を使用しており、約6MHzの帯域を1つのチャンネルとして13個のセグメントと呼ばれる領域に分けて放送する仕組みとなっています。そのうち12セグメントを使って高画質・高音質の固定受信向けのHDTV放送（弱階層）を行うサービスを12セグと呼びます。1セグ放送は、残り1セグメントを使って携帯や移動体向けの簡易動画放送（強階層）を行うサービスです。
1セグは12セグに比べると画質や音質は劣りますが、電波の到達距離は12セグより長く、送信局から離れた場所でも安定して受信できる特長を備えています。



マルチチャンネル放送について

地上デジタル放送では、1つの放送局が図のように周波数帯域を2 ～ 5に分け、それらを組み合わせることでチャンネルを構成しています。

	A 放送局		
	○○○ch	△△△ch	×××ch
6 時	プロ野球中継 （デジタルハイビジョン放送）		
7 時	プロ野球 （標準テレビ放送）	ドラマ （標準テレビ放送）	ニュース （標準テレビ放送）
8 時	映画 （デジタルハイビジョン放送）		

上記の例で、6時台は○○○chと△△△chと×××chのすべてを使いプロ野球を放送。7時台は○○○chでプロ野球、△△△chでドラマ、×××chでニュースをそれぞれ放送。8時台は、○○○chと△△△chと×××chのすべてを使い映画を放送、などのような編成ができます。
上記の放送の例では、○○○chをメインチャンネル、△△△chと×××chをサブチャンネルと呼びます。
本機はマルチチャンネルに対応しています。

テレビを見る前に

テレビを視聴するために必要なmini B-CASカードについて説明します。

mini B-CASカードについて

mini B-CASカード（以降、B-CASカード）は、デジタル放送番組の著作権保護や有料放送の視聴などに利用するカードです。
地上デジタル放送では、このB-CASカードがセットされていないと放送をご覧になれません。
地上デジタル放送を視聴するときは、必ず本機にB-CASカードを入れてください。
地上デジタルテレビ放送は、放送番組の著作権保護のため、コピー制御信号を加えて放送しています。その信号を有効に機能させるためにB-CASカードが必要です。

⚠ 警告

- **B-CASカードは、乳幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込むおそれがあります。万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。**

❗ お願い

- B-CASカードを折り曲げたり、濡らしたり、大きな衝撃を加えたりしないでください。衝撃などが加わるとカードが故障するおそれがあります。
- B-CASカードの金属端子面は触らないでください。金属端子面に触れるとカードが故障するおそれがあります。
- B-CASカードを直射日光に当たるところに長時間放置しないでください。高温によりカードが故障するおそれがあります。
- B-CASカードを磁気がある場所に放置しないでください。磁気によりカードが故障するおそれがあります。

お知らせ

- B-CASカードは本機に付属のものを使用してください。
- 試乗車など、不特定、または多数の人の視聴を目的とした業務用途には使用できません。
  ※試乗車の場合は、特別用途向けカードをご使用ください。

mini B-CASカードを台紙から取る

B-CASカードの「使用許諾契約約款」をよくお読みになり、お客様ご自身でパッケージを開封してください。お客様がカードのパッケージを開封した時点で、カード台紙に記載の「B-CASカード利用許諾契約約款」を締結したことになります。
B-CASカードが貼り付けられていた台紙は、大切に保管しておいてください。B-CASカスタマーセンターへ問い合わせる際の案内などが記載されています。

お知らせ

- B-CASカードに関する内容の問い合わせや、B-CASカードを紛失された場合は、下記へお問い合わせください。
  株式会社ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ　カスタマーセンター
  TEL：0570-000-250
  （AM10：00 ～ PM8：00）（年中無休）
- お問い合わせ時にB-CASカードのID（識別）番号が必要となる場合があります。あらかじめB-CASカードのID番号は控えておいてください。→ P.119

mini B-CASカードのセット

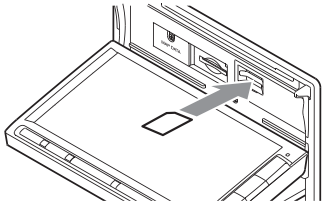
お願い

- B-CASカードの抜き差しは、必ず車両の電源をOFFにした状態で行ってください。
- カード挿入口にB-CASカード以外のものを挿入しないでください。故障の原因となります。
- 車から離れるときは、必ず操作パネルを閉じてください。

1 **車両の電源をOFFにする**

2 ⏏ ▶ **パネル開／閉**
操作パネルが開きます。

3 **印字面を上にして、mini B-CASカードをカード挿入口に挿入する**



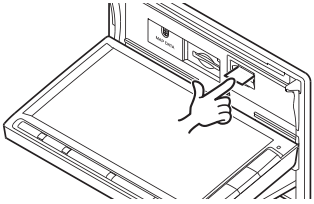
4 ⏏ **または** **パネル開／閉**

お知らせ

- mini B-CASカードを入れる向きを間違えないようにしてください。入れる向きを間違えると地上デジタル放送を視聴できません。

印字面を上にして差し込む

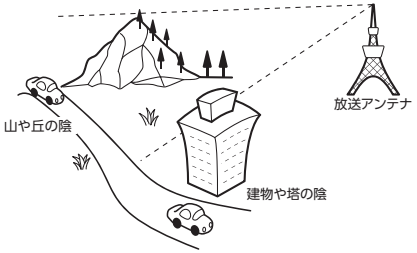
- mini B-CASカードは必ず奥に突き当たるまで差し込んでください。奥まで差し込まれていないと、操作パネルが閉じなくなり、受信できません。（カチッと音がするまで差し込みます。）
- mini B-CASカードを抜く場合は、カードや本体を傷つけないよう静かに抜いてください。（指先でカチッと音がするまで押して離します。その後、指先でカードをしっかりつまんで手前に抜き取ります。）



テレビ放送の受信について

テレビをご覧になるにあたって、以下のような現象が起こることがあります。

- ●車の移動によって、建物や山などの障害物に影響されて電波の強さが変わり、受信状態が悪くなることがあります。
- ●放送エリアから離れると、電波が弱くなり、受信状態が悪くなります。
- ●電車の架線や高圧線、信号機などの外部要因により、画像が乱れたりする場合があります。



はじめてテレビを見るときは

はじめてテレビを見るときは、受信できる放送局を探して、本機に記憶（オートプリセット）させます。

1 **ソース選択画面で** Digital TV

2 設定

設定しない：

テレビ画面に切り替わる。
この場合､放送局のリスト(プリセットチャンネルリスト）には何も表示されません。

3 **テレビを受信する地域を選択**

4 **テレビを受信する地域の郵便番号を入力 ▶** 決定

5 はい

受信できる放送局を探して、本機に自動登録します。オートプリセットが終了するまで、しばらくお待ちください。

オートプリセットが終了すると、テレビ画面に切り替わります。
画面をタッチすると、メニューキーが表示されます。

戻る：

手動でメニューキーを非表示にする。

何も操作しないまま約8秒が過ぎると、画面に表示されているキーが非表示になります。

MEMO

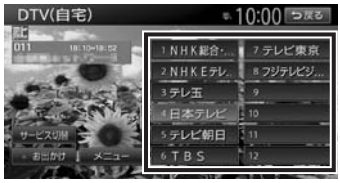
- 手順3、手順4で「設定しない」を選択しても、オートプリセットを実行できます。
- 手順5で「いいえ」を選択すると、テレビ画面に切り替わります。この場合、放送局のリスト（プリセットチャンネルリスト）には何も表示されません。
- 受信する地域と郵便番号は、設定画面からも設定できます。
  → P.118「優先エリアを切り替える」

テレビの選局をする

テレビ画面から選局する

1 **ソース選択画面で** Digital TV

2 **画面をタッチ ▶ 放送局を選択**



選択した放送局に切り替わります。

MEMO

- ⏮、⏭ を押すと、チャンネルを切り替えられます。

自動で選局する

1 ソース選択画面で Digital TV

2 ⏮ または ⏭ を長押し
受信可能な放送局を検出すると、自動的に終了しその放送局を受信します。

MEMO
- 「1セグ／地デジ切替」が「自動」の場合は、12セグ放送を優先して受信します。→ P.116

受信可能な中継局／系列局を探す

走行中に受信状態が悪くなった場合などに、中継局や系列局を探して切り替えられます。
はじめに中継局を探し、中継局がなければ系列局を探します。

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 メニュー ▶ 系列局サーチ
走行エリア内で、受信状態の良い中継局／系列局を探索し切り替えます。
異なる地域をまたいで走行する場合は、中継局／系列局を自動で探し出して受信できます。→ P.118

MEMO
- 「1セグ／地デジ切替」が「自動」の場合は、12セグ放送を優先して受信します。→ P.116
- 系列局に切り替わった場合、時間帯によって番組内容が異なることがあります。
- 切り替わった中継局／系列局は、プリセットチャンネルリストに自動登録されません。

番組表（EPG）から選局する

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 メニュー ▶ 番組表

4 ▲、▼、◀、▶ で番組を選択 ▶ 決定

選択した番組の放送を受信します。

番組表切替：
番組表の表示を1セグ／ 12セグに切り替える。
※「1セグ／地デジ切替」が「自動」の場合のみ→ P.116

更新：
番組表の内容を更新する。

前日：
翌日以降の番組表を参照中に、前日の番組表を表示する。

翌日：
翌日の番組表を表示する。

表示切替：
番組表の表示を、メインチャンネルのみ／全チャンネルに切り替える。

拡大縮小：
4パターンの拡大縮小画面を表示する。

MEMO
- 番組表は、ほかのソース選択時やオーディオパワー OFF時などに、15分ごとに自動で更新されます。
- 現在の放送時間ではない番組を選択すると、番組内容が表示されます。→ P.115

チャンネル番号を入力して選局する

12セグおよび1セグ放送のメイン／サブチャンネルを直接入力して選局できます。

1 **ソース選択画面で** Digital TV

2 **画面をタッチ**

3 メニュー ▶ 設定

4 チャンネル番号入力

5 **チャンネル番号を入力 ▶** 決定

お知らせ
- 3桁に満たない番号を入力した場合は、決定 はタッチできません。

MEMO
- 「1セグ／地デジ切替」が「自動」の場合は、1セグ／ 12セグのどちらの3桁チャンネル番号を入力しても放送局があれば選局されます。→ P.116
「1セグ固定」の場合は1セグ3桁チャンネル、「地デジ固定」の場合は12セグ3桁チャンネル番号のみ選局されます。

テレビのプリセットチャンネルリストを利用する

プリセットチャンネルとは

走行中のエリアで受信可能な放送局を登録（プリセット）できるチャンネルです。ワンタッチでお好みの放送局を受信できます。
プリセットチャンネルリストは、自宅モードとお出かけモードの2種類があります。登録できる放送局は、それぞれのモードで12個までです。
プリセットチャンネルへの登録方法は、手動と自動の2種類があります。

プリセットチャンネルリスト
（放送局リスト）

お知らせ
- プリセットチャンネルに登録される放送局は、メインチャンネルのみです。サブチャンネルを受信中にプリセットチャンネルを登録しても、そのメインチャンネルが登録されます。
- 1セグと12セグを切り替えても、プリセットチャンネルリストの表示は変わりません。→ P.116

受信バンドを活用する

地域別のプリセットチャンネルを「自宅」、「お出かけ」にそれぞれ設定することで、受信バンドをワンタッチで切り替えて利用できます。
たとえば東京にお住まいで、よく大阪に出かけられる場合は、「自宅」に東京、「お出かけ」に大阪の放送局を登録します。すると、お出かけ時にもワンタッチでお好みの放送局を受信できます。
サブチャンネルを視聴しているときにバンドを切り替え、再度元のバンドに戻ると、視聴しているサブチャンネルに戻ります。

1 **ソース選択画面で** Digital TV

2 **画面をタッチ**

3 お出かけ
プリセットチャンネルリストの表示が切り替わります。
お出かけモード選択時には、お出かけキーがONになります。自宅モード選択時にはお出かけキーがOFFになります。

リストに自動で登録する（オートプリセット）

1 **ソース選択画面で** Digital TV

2 **画面をタッチ**

3 メニュー ▶ オートプリセット
受信可能な放送局が、現在のプリセットチャンネルに上書き登録されます。

— お知らせ
- 本操作中は、放送局を選択できません。終了するまでお待ちください。
- 受信状態によっては、1分ほど処理時間がかかることがあります。
- 空きプリセットチャンネル数により、オートプリセットした結果が全部は登録できない場合があります。

— MEMO
- お出かけモード中で、お出かけ地域を設定している場合は、手順3の後に「現在のお出かけ地域設定を考慮しますか？」と表示されます。→ P.118「優先エリアを切り替える」
  はい または いいえ をタッチして、オートプリセットを行います。
- オートプリセット中は、キャンセル をタッチして取り消せます。
- オートプリセットを行うと、現在のプリセットチャンネルに上書き登録されます。
  以前に手動で登録したプリセットチャンネルが消去される場合もあります。
- オートプリセットを途中解除した場合は、プリセットチャンネルの内容は書き換わりません。オートプリセット前に受信していたチャンネルが選局されます。
- 地域設定で優先エリアに指定されている地域の番組は、優先的にプリセットチャンネルに登録されます。→ P.118
- 県境などでオートプリセットを実行時、同じチャンネルに複数の放送局が重なった場合は、オートプリセットしたリスト内の未登録のプリセットチャンネルに割り振られます。
- 「1セグ／地デジ切替」が「自動」の場合は、12セグ放送を優先して受信します。→ P.116
  「1セグ固定」、または「地デジ固定」の場合は、選択したモードで受信します。

リストに手動で登録する

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 登録したい放送局を受信

4 プリセットチャンネルリスト内の上書きするチャンネルを、「ピーッ」という音がするまで長押し

受信中の放送局が、そのチャンネルに上書き登録されます。

メイン／サブチャンネルを選局する

受信中のチャンネルにサブチャンネルがある場合、メインチャンネルからサブチャンネルに切り替えられます。

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 プリセットチャンネルリスト内のサブチャンネルに切り替えたいチャンネルを選択

4 サービス切替

サブチャンネルに切り替わります。

— MEMO
- サブチャンネルからメインチャンネルに切り替える場合も、サービス切替 をタッチします。
- 以下の場合、メイン／サブチャンネルの切替はできません。
  - サブチャンネルが放送されていないチャンネル
  - プリセットチャンネルリストに登録されていないチャンネル

テレビの便利な機能を利用する

テレビの番組内容を見る（12セグ放送のみ）

お知らせ
- 走行中は、本操作を行えません。

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 メニュー ▶ 番組内容

MEMO
- 番組表（EPG）画面で現在放送中ではない番組を選択した場合も、番組内容を表示できます。→ P.112
  この場合は、番組内容の概要が表示されます。番組内容の概要は、1セグ選択中でも表示できます。

データ放送を利用する（12セグ放送のみ）

地上デジタル放送には、映像や音声によるテレビ放送のほかにデータ放送があります。データ放送では、自車位置周辺の生活情報やクイズ・ニュース・天気予報などの便利な情報をお知らせします。

MEMO
- データ放送がない番組の場合、データ放送画面は表示されません。

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 メニュー ▶ データ放送操作キー呼出

4 d をタッチ
データ放送画面が表示されます。

5 ✥ をタッチ

d：
データ放送の表示／非表示を切り替える。

終了：
データ放送の表示を終了し、テレビ画面に戻る。

画面上に操作キーが表示されます。

6 データ放送操作キーを選択

◀ ▲ ▶ ▼：
選択項目を切り替える。

青 赤 緑 黄：
画面に表示されている説明の動作を行う。

戻る：
1つ前の画面に戻る。

決定：
選択している項目を決定する。

0-9：
数字入力メニューに切り替わる。

d：
データ放送の表示／非表示を切り替える。

移動：
操作キーの位置を画面の左右に移動する。

終了：
データ放送の表示を終了し、テレビ画面に戻る。

消す：
操作キーの表示を消す。

お知らせ
- チャンネル選局直後には d をタッチしても動作しないことがあります。その際は、再度 d をタッチしてください。
- データ放送取得中は、画面下に「データ取得中」と表示されます。表示が消えてから d をタッチしてください。

緊急放送を見る

緊急放送とは、災害など、緊急な出来事が発生した場合に、いち早く視聴者に情報を知らせる放送システムです。
テレビを視聴中に緊急放送がはじまると、画面に「EWS」(Emergency Warning System)、または「緊急放送を受信しました」と表示されます。その後、自動で緊急放送に切り替わります。

放送が終了すると、緊急放送前のチャンネルに自動で戻ります。

MEMO
- 緊急放送中でもチャンネル切り替えなどの操作はできます。
- 切り替えた放送局が緊急放送中の場合も、同様に緊急放送が表示されます。

自動表示メッセージについて

テレビを視聴中に、放送局から自動配信されるメッセージがある場合は、その内容が画面上に表示されます。
テレビ画面で メッセージ消 をタッチすると、自動表示メッセージが消去されます。表示されない場合は、自動表示メッセージは消去できません。放送局側によって自動消去されるまでお待ちください。

地上デジタル放送の設定をする

地上デジタル放送で12セグと1セグ共通の各種設定・編集ができます。

1セグ／12セグの切り替え設定をする

本機の地上デジタルTVチューナーは、12セグ放送受信時に電波が弱くなった場合、12セグ放送から1セグ放送へ自動的に切り替える設定ができます。
「自動」に設定中は、12セグ放送視聴中に受信電波が弱くなると、視聴していたチャンネルの1セグ放送に自動的に切り替わります。(初期値:自動)
また、1セグ／12セグのみ受信することもできます。

MEMO
- 以下の場合は自動的に切り替わりません。
  - 1セグ放送の受信感度が悪い場合
  - 12セグ放送で視聴していたチャンネルに1セグ放送がない場合

  ただし放送局によっては、1セグ放送を行っていなくても、自動的に切り替わる場合があります。
- 放送局によっては、12セグ放送と1セグ放送とで番組が異なる場合があります。

1 ソース選択画面で Digital TV
2 画面をタッチ
3 メニュー ▶ 設定

4 [1セグ/地デジ切替] の ◀、▶ で項目を選択

自動：
12セグ放送と1セグ放送を自動で切り替える。
手動で1セグ放送に切り替えても、12セグ放送の受信電波が強くなった場合は12セグ放送に切り替わります。

地デジ固定：
12セグ放送を受信する。
電波が弱くなっても1セグ放送に切り替わらずに、12セグ放送の映像が静止画で表示されます。

1セグ固定：
1セグ放送を受信する。

MEMO
- 12セグ放送のサブチャンネルを視聴しているときに1セグ放送に切り替え、再度12セグ放送に切り替えると、視聴しているサブチャンネルに戻ります。

音声言語を切り替える

2ヶ国語放送や複数の音声がある番組で、音声を切り替えます。

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 メニュー ▶ 設定

4 [音声]の ◀、▶ で音声を選択
受信される番組は、それぞれ音声種類を持っています。12セグ放送は最大16音声まで、1セグ放送は2音声まで切り替えられます。

MEMO
- 音声を切り替えた後、ほかのチャンネルに切り替えると第1音声に戻ります。同じチャンネルのまま12セグと1セグを切り替えた場合、設定した音声は変わりません。

二重音声を切り替える

主音声／副音声がある番組で、音声を切り替えます。

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 メニュー ▶ 設定

4 [主/副] の ◀、▶ で音声を選択
「主音声」「副音声」「主/副 音声」から選択します。(初期値：主音声)

MEMO
- 副音声の状態でほかのチャンネルに切り替えたとき、同じく副音声で放送されていればそのまま継続されます。

字幕表示を切り替える

字幕の付いた番組受信中に字幕を表示する機能を設定します。

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 メニュー ▶ 設定

4 [字幕] の ◀、▶ で項目を選択
「第一言語」「第二言語」「非表示」から選択します。(初期値：非表示)

放送局を自動で切り替える

高校野球中継など、時間内に放送が終わらなかったとき局が変更される番組は、放送局の切り替えを自動で行えます。(初期値：ON)

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 メニュー ▶ 設定

4 イベントリレー

系列局／中継局を自動で探す

走行中に電波状態が悪化し、受信レベルが回復しない場合、放送局を自動でサーチするように設定できます。(初期値:中継局＋系列局サーチ)

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 メニュー ▶ 設定

4 放送局自動サーチ設定

5 目的の項目を選択

OFF：
放送局の自動サーチを行わない。

中継局＋系列局サーチ：
走行している地域が変わった場合、その地域の中継局／系列局を自動でサーチする。電波が弱くなり、15秒間受信できなくなると、自動サーチを開始します。

優先エリアを切り替える

県境などでオートプリセットを実行時、同じチャンネルに複数の放送局が重なった場合に、優先エリアのチャンネルが選択されるよう設定します。またデータ放送受信時に地域情報を取得するために郵便番号を設定します。(初期値：未設定)
優先地域と郵便番号は「自宅」と「お出かけ」でそれぞれ設定できます。

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 メニュー ▶ 設定

4 自宅エリア・郵便番号設定
(自宅モード中)、または
お出かけエリア・郵便番号設定
(お出かけモード中)

5 優先させたい地域を選択

設定しない：
エリアのみ設定したい場合や、その地域の郵便番号が不明な場合に選択する。

6 郵便番号を入力 ▶ 決定

7 はい

いいえ：
オートプリセットを行わず、テレビ画面に戻る。

オートプリセットが開始されます。
→ P.113

放送メールを表示する

お知らせ
- 放送メールの受信が1通もない場合、放送メール はタッチできません。

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 メニュー ▶ 設定

4 放送メール

放送メール一覧画面が表示されます。
すでに表示したメールは「既読」が、まだ表示していないメールには「未読」が表示されます。

5 メールを選択 ▶ 決定

選択した放送メールの内容が表示されます。

消去：
放送メールを選択して消去する。
また、すべての放送メールを一括で消去できます。→ P.119「テレビの設定情報を初期化する」

MEMO
- 受信した放送メールは最大8件まで保存されます。8件以上の放送メールを受信した場合は、一番古い放送メールが自動的に消去されます。一番古いメールが未読状態でも消去されます。

mini B-CASカード情報を確認する

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 メニュー ▶ 設定

4 B-CASカード情報

mini B-CASカードIDの確認画面が表示されます。

テスト：
mini B-CASカードの通信テストを行う。
通信テストがエラーの場合、番組放送画面に戻るときにメッセージが表示されます。メッセージの内容にしたがって対処してください。

テレビの設定情報を初期化する

1 ソース選択画面で Digital TV

2 画面をタッチ

3 メニュー ▶ 設定

4 設定情報初期化

5 初期化したい設定情報を選択

受信メール消去：
放送メールをすべて消去する。

自宅エリア設定消去：
自宅モードの地域と郵便番号設定を消去する。

お出かけエリア設定消去：
お出かけモードの地域と郵便番号設定を消去する。

各種設定項目の初期化：
設定メニューで設定した項目を初期化する。プリセットチャンネルリストおよび画質調整設定の初期化、放送メールの消去は行いません。

全データの消去・初期化：
設定メニューで設定した項目およびプリセットチャンネルリストを初期化する。また、放送メールをすべて消去する。
画質調整の設定は初期化されません。

消去の確認画面が表示されます。

6 はい

選択した各設定が初期化されます。

お願い
- 初期化メッセージ表示中には、車両の電源をOFFにしないでください。初期化中に車両の電源をOFFにした場合、初期化できないことがあります。

映像／音声のずれを補正する

12セグ／ 1セグ自動切替時の映像／音声のずれを軽減します。(初期値：ON)

1 ソース選択画面で Digital TV
2 画面をタッチ
3 メニュー ▶ 設定
4 遅延補正

テレビの画質を調整する

1 ソース選択画面で Digital TV
2 画面をタッチ
3 メニュー ▶ 設定
4 画質調整
5 調整する項目を選択

6 − または ＋ をタッチ
画面の映像を見ながら画質を調整します。
7 戻る
調整した画質に設定されます。

MEMO
• 画質は昼画面と夜画面でそれぞれ設定できます。

DVDを見る

本機では、市販されているDVDビデオ、またご家庭などで録画されたDVD-VRをお楽しみいただけます。

⚠ 警告

- **運転者がDVDの映像を見るときは、必ず安全な場所に停車させてください。**
- **本機は安全のため、停車時のみDVDの映像をご覧いただけます。走行中は、音声のみお楽しみいただけます。**

お知らせ
• 市販のDVD（DVDビデオ）とご家庭で録画されたDVD（DVD-VR）では、画面や操作方法が異なります。ご利用になるDVDの種類に該当する箇所をご覧ください。

DVDを再生する

1 DVDをセットする、または
ソース選択画面で DVD/CD
本機にセットされたDVDが再生されます。

DVDビデオ再生画面

DVD-VR再生画面

画面をタッチすると、メニューキーが表示されます。

戻る：
手動でメニューキーを非表示にする。

何も操作しないまま約5秒が過ぎると、画面に表示されているキーが非表示になります。

DVD再生時の操作

再生を停止する

1 再生中に画面をタッチ ▶ ▶/II を長押し

DVDの映像が非表示となり、再生が停止します。(レジューム停止)
レジューム停止中に ▶/II をタッチすると、停止した場所から再生がはじまります。
レジューム停止中に ▶/II を長押しすると、再生が完全に停止します。(完全停止)
次に再生したときは、ディスクの先頭から再生されます。

一時停止する

お知らせ
- DVDビデオの場合、メニュー中に一時停止や再生開始などのキー操作ができない場合があります。そのような場合は、メニュー操作をタッチして、DVDメニューの操作キーから操作を行ってください。

1 再生中に画面をタッチ ▶ ▶/II をタッチ

DVDの映像が表示された状態で、再生が一時停止します。
一時停止中に ▶/II をタッチすると、停止した場所から再生がはじまります。
一時停止中に ▶/II を長押しすると、DVDの映像が非表示となり、再生が停止します。(レジューム停止)

MEMO
- 一時停止中に交通情報を聞くと、一時停止が解除され、再生がはじまります。

前／次のチャプターを再生する

1 ⏮ または ⏭

MEMO
- ⏮ を押すとチャプターの先頭に戻り、さらに ⏮ を押すごとに前のチャプターに移動します。

早戻し／早送りする

1 再生中に ⏮ (早戻し)、または ⏭ (早送り) を長押し

MEMO
- ⏮ 、⏭ から指を離すと、通常の再生に戻ります。

スロー再生する

1 再生中に画面をタッチ ▶ ▶/II をタッチ
2 ⏭ を長押し

MEMO
- ⏭ から指を離すと、通常の再生に戻ります。
- スロー再生中は、再生情報表示部に「スロー再生 1/4」と表示されます。

リピート再生をする

お知らせ
- DVD-VRでプレイリストを利用して再生している場合は、リピート再生できません。

1 ソース選択画面で DVD/CD
2 画面をタッチ
3 リピート

MEMO
- 通常再生に戻す場合は、リピートを再度タッチします。

メニューから再生する（DVDビデオ）

DVDビデオディスクには、そのディスク特有のDVDメニュー（ディスクメニュー）が収録されているものがあります。ディスクメニューを利用して、本編や映像特典など、見たい映像をすぐに再生できます。

お知らせ
- 表示されるメニューや操作方法は、各ディスクにより異なります。

1 **ソース選択画面で** DVD/CD

— MEMO —

• DVDメニュー再生中にメニュートップ画面に戻るとタイトルやチャプターなどを直接タッチできます。
[◆] をタッチすると、手順5の画面に切り替わります。

2 **画面をタッチ**

3 メニュー操作

4 トップメニュー **または** メニュー

トップメニュー、または再生中のチャプターのメニューが表示されます。

— お知らせ —

• 「現在その操作はできません」と表示された場合は、DVDビデオのディスク自体にメニューが設定されていません。

5 ▲、◀、▶、▼ **でメニューを選択** ▶ 決定

選択したメニュー項目が再生されます。

戻る：
1つ前の画面に戻る。

10キー：
メニュー番号を直接入力して、メニュー項目を選択する。

左へ、右へ：
タッチキーを画面の左右に移動する。

クリア：
10キー入力した番号を消去する。

タイトルリストから再生する（DVD-VR）

1 **ソース選択画面で** DVD/CD

2 **画面をタッチ**

3 リスト

4 **見たいタイトルを選択**

選択した項目が再生されます。

番号指定：
タイトルリスト番号を入力する。
入力した番号が先頭になったタイトルリストが表示されます。

5 戻る

プレイリストから再生する（DVD-VR）

プレイリストとは、DVD映像をお好みのシーンだけに編集し、独自に作成したタイトルです。

1 **ソース選択画面で** DVD/CD

2 **画面をタッチ**

3 プレイリスト **（ONになっていることを確認）**

— MEMO —

• 「プレイリスト」がONのときは、プレイリストが表示されます。「プレイリスト」がOFFのときは、タイトルリストが表示されます。

4 リスト

5 **見たい項目を選択**

選択した項目が再生されます。

番号指定：
プレイリスト番号を入力する。
入力した番号が先頭になったプレイリストが表示されます。

6 戻る

静止画の切り替えをする（DVD-VR）

— MEMO
• 本機能は、音声の入っていない静止画再生時のみ使用できます。

1 **ソース選択画面で** DVD/CD
2 **画面をタッチ**
3 静止画切替
タッチするたびにチャプター内の静止画が切り替わります。

— お知らせ
• 静止画切替 をタッチしてもほかのチャプターの静止画は再生されません。ほかのチャプターは ⏮ 、⏭ を押して再生してください。

— MEMO
• チャプター内に静止画が 1 枚しか収録されていない場合などは、「現在その操作はできません」と表示されます。

タイトル・チャプター番号を入力して再生する（DVDビデオ）

1 **ソース選択画面で** DVD/CD
2 **画面をタッチ**
3 設定 ▶ 10キーダイレクト入力
4 タイトル **または** チャプター
5 **番号を入力**

6 決定 ▶ 戻る ▶ 戻る
入力したタイトル、またはチャプターが再生されます。

DVDの設定をする

字幕言語・音声言語・アングルを切り替える（DVDビデオ）

— お知らせ
• DVDに字幕、複数の音声およびアングルが収録されている場合のみ有効です。

1 **ソース選択画面で** DVD/CD
2 **画面をタッチ**
3 設定 ▶ 音声・字幕・アングル
4 音声 、字幕 、アングル
タッチするたびに音声言語、字幕言語、アングルの設定が切り替わります。

— お知らせ
• 設定できる言語はディスクによって異なります。

— MEMO
• 初期設定で設定できる言語以外の言語が収録されている場合は、「その他」と表示されます。
•「OFF」で字幕を非表示にできます。

5 戻る

字幕表示・音声を切り替える（DVD-VR）

— お知らせ
• DVDに字幕、複数の音声が収録されている場合のみ有効です。

1 **ソース選択画面で** DVD/CD
2 **画面をタッチ**
3 設定 ▶ 音声・字幕
4 音声 **または** 字幕
タッチするたびに音声、または字幕の設定が切り替わります。

— お知らせ
• 設定できる音声はディスクによって異なります。

5 戻る

画面サイズを切り替える

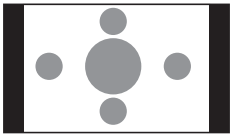
1 ソース選択画面で DVD/CD

2 画面をタッチ

3 設定 ▶ 画面切替

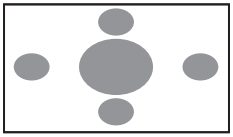
4 画面サイズを選択

ノーマル：



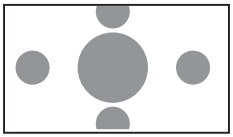
映像を縦横の比率を変えずに中央に表示する。
映像と画面のサイズが異なる場合、画面の余った部分が黒く表示されます。

フルワイド：



映像を画面いっぱいに表示する。
映像と画面のサイズが異なる場合、映像の比率が変わって表示されます。

シネマ：



シネスコサイズやビスタサイズの映像を表示するときに使う。
映像と画面のサイズが異なる場合、映像の横部分と画面の横縦部分の大きさを合わせて表示されます。上下の余った部分が黒く表示されます。

5 戻る

DVDの画質を調整する

1 ソース選択画面で DVD/CD

2 画面をタッチ

3 設定 ▶ 画質調整

4 調整する項目を選択

5 − または ＋ をタッチ
画面の映像を見ながら画質を調整します。

6 戻る
調整した画質に設定されます。

MEMO
• 画質は昼画面と夜画面でそれぞれ設定できます。

DVDの状態表示を設定する

再生画面に、常にチャプター番号と再生時間を表示できます。

1 ソース選択画面で DVD/CD

2 画面をタッチ

3 (DVDビデオの場合)
設定 ▶ 初期設定
(DVD-VRの場合)
設定

4 常に状態を表示する
再生状態の表示が設定されます。

MEMO
• 再生状態の表示を解除する場合は、常に状態を表示する を再度タッチします。

DVDビデオの初期設定を変更する

MEMO
- 初期設定画面から各設定画面に移動すると、DVDの再生は停止します。設定終了後は、DVDの再生がはじまりますが、設定内容によって再生がはじまる位置が異なります。(DVDの先頭から再生されることもあれば、設定前の場所から再生がはじまることもあります)
- 以下の初期設定画面で何もせずに画面を閉じると、設定前の場所から再生がはじまります。

DVDのモニターサイズを設定する

1 ソース選択画面で DVD/CD

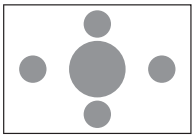
2 画面をタッチ

3 設定 ▶ 初期設定

4 モニターサイズ設定

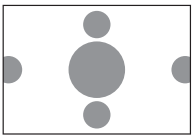
5 モニターサイズを選択

ワイド：



映像を画面いっぱいに表示する。
映像と画面の比率が違う場合は、変形して表示されます。映像が切れる部分はありません。

パンスキャン：



画面の上下と映像の高さを合わせて表示する。
映像と画面の比率が違う場合は、映像の左右が切れて表示されます。

レターボックス：

画面の横幅と映像の幅を合わせて表示する。
映像と画面の比率が違う場合は、上下に黒い帯が表示されます。

お知らせ
- 収録されているモニターサイズは、ディスクごとに異なります。モニターサイズを「パンスキャン」、または「レターボックス」に設定しても、ディスクによっては自動的にどちらかで再生される場合があります。

優先する言語を設定する

再生時に優先する言語を、メニュー言語、音声言語、字幕言語のそれぞれについて設定できます。

お知らせ
- 本設定は、DVD再生時に優先する言語の設定です。必ずしも切り替えた言語で再生されるわけではありません。

1 ソース選択画面で DVD/CD

2 画面をタッチ

3 設定 ▶ 初期設定

4 メニュー言語 、音声言語 、字幕言語

いずれかのキーをタッチすると、言語のリストが表示され、再生時に優先する言語を選択できます。

— MEMO —

- 各言語は、英語、日本語、中国語、韓国語、フランス語、スペイン語から選択できます。字幕言語では「OFF」を選択すると、字幕を非表示にできます。

5 言語を選択

パレンタルレベルとパスワードを設定する

パレンタルレベルとは、お子様に対しDVDの視聴を制限させるために設定するものです。パレンタルレベルの設定には、パスワードが必要です。→ P.126

■ 視聴制限（パレンタルレベル）について

DVDビデオには、「視聴制限（パレンタルレベル）」が設定されているものがあります。レベルは1 ～ 8まであり、数字が小さくなるほど視聴制限が厳しくなります。視聴制限が設定されているディスクは、本機のパレンタルレベル設定によっては再生できない場合があります。

例：DVDの視聴制限がレベル3の場合
本機で設定したパレンタルレベルが、「レベル3 ～ 8」の場合のみ、再生できます。
「レベル1 ～ 2」の場合は、再生しようとすると「パレンタルレベル変更」の警告メッセージが表示されます。
また、パレンタルレベルは国によって異なります。カントリーコードを設定しないと、視聴制限がうまく機能しない場合があります。
→ P.211

— お知らせ —

- パレンタルレベルは、DVDのパッケージなどに記載されています。パッケージにパレンタルレベルの記載がないディスクは、パレンタルレベルを設定しても視聴制限はかけられません。

— MEMO —

- 視聴制限をかけない場合は、本設定は必要ありません。
- パレンタルレベルの初期値は「パレンタルレベルOFF」です。すべてのDVDビデオに対して視聴制限のない状態になっています。

■ パスワードを設定・変更する

視聴制限の設定に必要なパスワードを設定・変更します。（初期値：未設定）

1 ソース選択画面で DVD/CD

2 画面をタッチ

3 設定 ▶ 初期設定

4 パスワード

5 パスワードを入力 ▶ 決定

入力されたパスワードは、「＊＊＊＊」と表示されます。
新規パスワード設定の場合→手順8

6 パスワードの変更

パスワードの消去：
パスワードを消去する。

7 新しいパスワードを入力 ▶ 決定

8 再度同じパスワードを入力 ▶ 決定

新しいパスワードが設定されます。

— MEMO —

- パレンタルレベルを頻繁に変更する場合は、パスワードを消去して「未設定」にしておくと、パスワード入力の手間を省けます。

■ パレンタルレベルを設定する

準備

●パレンタルレベルを設定する場合は、パスワードの設定が必要です。

1 **ソース選択画面で** DVD/CD

2 **画面をタッチ**

3 設定 ▶ 初期設定

4 視聴制限（パレンタルレベル）

5 **パスワードを入力** ▶ 決定

6 **パレンタルレベルを選択**
パレンタルレベルが設定されます。
OFF：
すべてのDVDビデオに対して視聴制限が解除される。

カントリーコードを設定する

パレンタルレベルは国によって内容が異なります。本機でパレンタルレベルを正しくお使いになるには、DVDのカントリーコードを設定してください。（初期値：7480（JAPAN））カントリーコードは、国を識別するためのコードです。→ P.211

1 **ソース選択画面で** DVD/CD

2 **画面をタッチ**

3 設定 ▶ 初期設定

4 カントリーコード

5 **DVDに記録してある国、または地域のカントリーコードを入力** ▶ 決定

CD、ディスク (MP3・WMA・AAC)の音楽を聴く

本機では、音楽CDのほかに、MP3・WMA・AAC形式の音楽データを保存したディスクをお楽しみいただけます。

— お知らせ
- 走行中は、操作できる項目が限定されます。

— MEMO
- 以下のディスクを再生すると、アーティスト名、曲名などの情報が表示されます。
  - 本機内蔵、またはオンライン上のデータベース「Gracenote Music Recognition Service℠」から情報が取得できる音楽CD → P.214
  - CD-TEXTの入ったディスク
  - ID3タグ、WMAタグ、AACタグの入ったディスク

  上記以外のディスクを再生した場合は、「Track01」などの番号のみ表示されます。
- ノンストップCD（曲と曲がつながっているCD）を再生した場合、曲間に2 ～ 3秒の無音部分が発生します。

CDを再生する

1 **CDをセットする、または**
ソース選択画面で DVD/CD
本機にセットされたCDが再生されます。

Music Rackの録音に関する設定を行います。→ P.130

— お知らせ
- 本機にSDカードがセットされている場合、操作パネルが完全に閉じるまで再生ははじまりません。

MP3・WMA・AACのディスクを再生する

1 **MP3・WMA・AACディスクをセットする、または**
ソース選択画面で DVD/CD
本機にセットされたディスクが再生されます。

ディスク再生時の操作

早戻し／早送りする

1 **再生中に** ⏮ **(早戻し)、または** ⏭ **(早送り) を長押し**

MEMO
- ⏮、⏭ から指を離すと、通常の再生に戻ります。

前／次の曲を再生する

1 **再生中に** ⏮ **または** ⏭

MEMO
- ⏮ を押すと曲の先頭に戻り、さらに ⏮ を押すごとに前の曲に移動します。

前／次のフォルダを再生する (MP3・WMA・AAC再生時)

1 **再生中に** 前フォルダ **または** 次フォルダ
前／次のフォルダに移動し、フォルダ内の先頭の曲が再生されます。

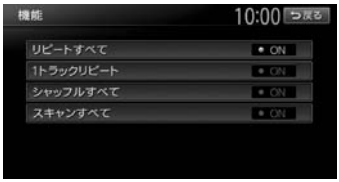
リピート・シャッフル・スキャン再生をする

1 **ソース選択画面で** DVD/CD

2 機能

3 **目的の項目を選択**

(CDの場合)



リピートすべて：
ディスク内の全曲をリピート再生する。
1トラックリピート：
現在再生中の曲のみをリピート再生する。
シャッフルすべて：
現在再生中のCDの全曲をランダムに再生する。
スキャンすべて：
現在再生中のCDの全曲の出だしを10秒間ずつ再生する。

(MP3・WMA・AACの場合)

リピートすべて：
ディスク内の全曲をリピート再生する。
リピートフォルダ：
現在再生中のフォルダ全体をリピート再生する。
1トラックリピート：
現在再生中の曲のみをリピート再生する。
シャッフルすべて：
ディスク内の全曲をランダムに再生する。
シャッフルフォルダ：
現在再生中のフォルダの全曲をランダムに再生する。
スキャンすべて：
ディスク内の全曲の出だしを10秒間ずつ再生する。

タイトルリストから再生する

MEMO
- 走行中はフォルダリスト、トラックリストのスクロールはできません。

1 **ソース選択画面で** DVD/CD

2 **(CDの場合)**
トラックリストが表示されます。
(MP3・WMA・AACの場合)
再生中のフォルダを選択
再生中のトラックリストが表示されます。

MEMO
- 再生中以外のフォルダを選択した場合は、トラックリストには切り替わりません。フォルダリストが表示されたまま、選択したフォルダの先頭の曲から再生がはじまります。トラックリストを表示するには、もう一度同じフォルダを選択します。

3 **曲を選択**

CD画面

MP3/WMA/AAC画面

選択した曲から再生がはじまります。

Music Rackを使う

Music Rackに録音する

Music Rackとは、CDの曲をSDカードに録音し、再生する機能のことです。CDを本機にセットしなくても、Music Rackに録音してあれば、そのCDの曲を聴けます。

録音する前にお読みください

Music Rackを使用するにはSDカードが必要です。
録り直しのきかない録音の場合は、正しく録音されていることを確認してください。
万一、本機の故障や誤作動および不具合により録音に支障が生じた場合でも、録音内容および消失した録音データについては補償いたしかねますので、ご容赦願います。
録音したデータは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使えません。
ノンストップCD（曲と曲がつながっているCD）を録音に使用された場合、曲間に2 ～ 3秒の無音部分をはさんで録音します。

録音についてのご注意

■ 録音時の状態について

以下のような場合には、音声が途切れたり音が飛んで録音されることがあります。
●録音中にCDの音が飛んだ
●傷があるなどCDの状態が悪い
●録音中に振動の激しい悪路を走行した

■ 録音中の操作について

録音中に以下の操作を行うと、録音中止の確認メッセージが表示されます。録音を中止する場合は はい を、続行する場合は いいえ をタッチします。
● REC をタッチする
●リピート／スキャン／シャッフル再生
●SDカードを使用した操作（データの取り込み／書き出しなど）

お知らせ
- 録音中は早送り、早戻し、トラックのアップ／ダウン操作はできません。
- 録音中は操作パネルを開閉することはできません。録音中に ▲ ▶ パネル開／閉 をタッチすると、「SDメモリーカードにアクセス中のためオープンできません」というメッセージが表示されます。操作を継続する場合はその指示にしたがってください。

録音中に車両の電源をOFFにすると、処理が中断されます。
次回車両の電源を「ACC」、または「ON」にすると、前回録音していた曲の先頭から録音がはじまります。

手動で録音する

1 **CD再生中に** REC

2 **希望の録音方法を選択**

全曲録音：
再生中のCDのすべての曲を録音する。
アルバムの先頭から録音されていない曲の録音がはじまります。

現在の曲を録音：
再生中の曲を録音する。
曲の先頭に戻り、録音がはじまります。

曲を指定して録音：
録音したい曲をリストから複数選択して録音する。
リストから曲を選択して 録音開始 をタッチすると、先頭に近い曲から順に録音がはじまります。

MEMO
- 録音モード選択画面にディスクの情報やSDカードの情報が表示されます。SDカードの空き容量が1MB未満の場合、空き容量に「1MB未満です」と表示されます。

自動で録音する

1 メニュー ▶ 設定

2 オーディオ ▶ その他設定 ▶ 録音設定

3 CD挿入時に自動録音

4 **SDカードを本機にセット**

5 **CDを再生する**
自動的に録音がはじまります。
次回からCDを本機にセットすれば、自動的に録音がはじまります。

お知らせ
- すでにCD全曲の録音が済んでいる場合は、録音は行いません。
- 自動録音を解除するには、CD挿入時に自動録音 を再度タッチしてOFFにします。

Music Rackについて

Music Rackの仕様は、以下のとおりです。

録音可能曲数
最大4000曲（アルバムは最大500枚、1つのアルバムに収録できる曲数：最大99曲）
※ただし、SDカードの容量により録音できる曲数は異なります。(4GBのSDカードはおよそ1000曲です。)

録音できる音源音楽
音楽CDのみ

音質
AACという音声圧縮技術を採用しています。CDの音質を損なわず、容量を約1/20に圧縮できます。

本機は、SCMS（Serial Copy Management System）の規格に準拠したデジタルオーディオ機器です。SCMSでは、各種デジタルオーディオ機器の間で「デジタル信号をデジタル信号のまま録音する」というデジタル信号どうしのコピーを〈1世代まで〉と規制しています。
したがって、以下の操作を本機で行えません。
- 本機に録音したCDの曲をデジタル出力、デジタルコピーすること
- デジタル録音したCD-RとCD-RWおよびコピーの禁止されているCDを録音すること

タイトル表示について

CDをMusic Rackに録音すると、本機内蔵のGracenote Music Recognition Service℠のデータベースからタイトル・読み・アーティスト名・ジャンルの情報が取得され、画面上に表示されます。

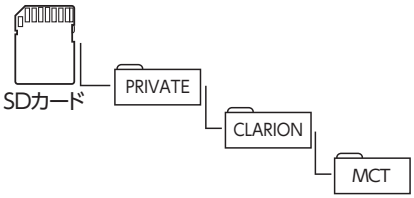
お知らせ
- 情報を取得できなかったCDには録音した日付が表示されます。また、CDや曲によっては、情報の取得ができない場合があります。

MEMO
- Gracenote Music Recognition Service℠のデータベースは、インターネット上のGracenoteデータベースから最新の情報に更新できます。
→ P.134「アルバム情報を更新する」

録音した音楽データについて

■ 録音した音楽データのバックアップ

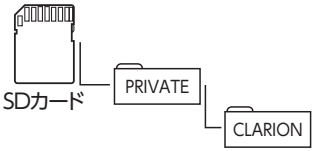
録音した音楽データはSDカード内の以下のフォルダに保存されます。



お使いのパソコンに、このフォルダをそのまま保存することでバックアップできます。

■ バックアップした音楽データの復元

バックアップした音楽データフォルダ「MCT」をSDカード内の下記フォルダに書き戻すことで復元できます。



すでに上記フォルダ内に「MCT」フォルダが存在する場合は、バックアップ、または消去してください。

お願い
- 「MCT」フォルダ内に存在するファイルおよびフォルダの消去や変更は絶対に行わないでください。Music Rackが正常に動作しなくなる可能性があります。
- SCMSでは、デジタル信号どうしのコピーを〈1世代まで〉と規制しています。→ P.130
これらの操作は、録音データ保存以外の目的では行わないでください。

Music Rackを再生する

お知らせ
- 走行中は、操作できる項目が限定されます。
- 再生中に操作パネルを開くと、再生が停止します。
- 再生時間は、録音元のCDとは異なります。

1 **SDカードを本機にセット**

2 **ソース選択画面で** Music Rack

Music Rack内の曲が再生されます。

Music Rack再生時の操作

早戻し／早送りする

1 **再生中に ⏮（早戻し）、または ⏭（早送り）を長押し**

MEMO
- ⏮、⏭ から指を離すと、通常の再生に戻ります。

前／次の曲を再生する

1 **再生中に ⏮ または ⏭**

MEMO
- ⏮ を押すと曲の先頭に戻り、さらに ⏮ を押すごとに前の曲に移動します。

前／次のアルバムを再生する

1 **再生中に 前アルバム または 次アルバム**

前／次のアルバムに移動し、アルバム内の先頭の曲が再生されます。

リピート・シャッフル・スキャン再生をする

1 **ソース選択画面で Music Rack**

2 **機能**

3 **目的の項目を選択**

選択した動作での再生がはじまります。

リピートすべて：
全アルバムの全曲をリピート再生する。

リピートアルバム：
現在再生中のアルバム全体をリピート再生する。

1トラックリピート：
現在再生中の曲のみをリピート再生する。

シャッフルすべて：
全アルバムの全曲をランダムに再生する。

シャッフルアルバム：
現在再生中のアルバムの全曲をランダムに再生する。

スキャンすべて：
全アルバムの各曲の出だしを10秒間ずつ再生する。

リストから再生する

1 **ソース選択画面で Music Rack**

2 **再生中のアルバム名を選択**

トラックリストが表示されます。

MEMO
- 再生中以外のアルバムを選択した場合は、アルバムリストが表示されたまま先頭の曲から再生がはじまります。トラックリストを表示するには、もう一度同じアルバムを選択します。

3 **曲を選択**

選択した曲が再生されます。

アーティスト名から再生する

1 **ソース選択画面で Music Rack**

2 **設定 ▶ アーティスト検索**

3 **アーティスト名を選択**

4 **アルバムを選択**

選択したアルバムの先頭から再生がはじまります。

MEMO
- 選択演奏中は、選択演奏の対象となっているアーティスト、またはアルバムのみが検索対象となります。→ P.133

条件から複数のアルバムを選んで再生する

以下の方法から、複数のアルバムを指定して再生できます。
●アルバムリストからアルバムを指定する
●アーティストのすべてのアルバムを指定する

1 **ソース選択画面で** Music Rack
2 設定 ▶ 選択演奏
3 アルバム選択 **または** アーティスト選択
選択演奏解除：
選択演奏を中止する。
4 **アルバム、またはアーティスト名を選択** ▶ 決定
選択した項目が再生されます。

お知らせ
- 決定 をタッチした直後は、SDカードに書き込み処理を行うため、操作パネルを開閉できない場合があります。

アルバム・トラック情報を編集する

お知らせ
- 選択演奏中および録音中は、タイトル編集 および アルバム並べ替え は操作できません。
- アルバム・トラック情報の編集中や操作直後は、SDカードに書き込み処理を行うため、操作パネルを開閉できない場合があります。

アルバム名、アーティスト名を編集する

1 **ソース選択画面で** Music Rack
2 設定 ▶ タイトル編集
3 **アルバムを選択**
4 アルバム **または** アーティスト
5 **アルバム名、またはアーティスト名を入力** ▶ 決定

MEMO
- アルバム名、アーティスト名は全角・半角で32文字まで入力できます。
- 文字入力について詳しくは、「文字パネルを操作する」をご覧ください。→ P.20

アルバムを消去する

お知らせ
- 一度消去したアルバムは元に戻せません。

1 **ソース選択画面で** Music Rack
2 設定 ▶ 曲の消去
3 **消去するアルバムをすべて選択** ▶ 決定
4 はい

アルバムの再生順序を並べ替える

1 **ソース選択画面で** Music Rack
2 設定 ▶ アルバム並べ替え
3 **移動させたいアルバムを選択**
4 **移動先を選択**
選択した位置にアルバムが移動します。
確認メッセージが表示され、アルバムリスト画面に戻ります。
アルバムリスト画面に戻ると、先頭のアルバムから再生がはじまります。

曲名を編集する

1 **ソース選択画面で** Music Rack
2 設定 ▶ タイトル編集
3 **編集する曲を含むアルバムの** 詳細
トラックリストが表示されます。
4 **曲を選択**
5 **曲名を入力** ▶ 決定

MEMO
- 曲名は全角・半角で32文字まで入力できます。
- 文字入力について詳しくは、「文字パネルを操作する」をご覧ください。→ P.20

曲を消去する

お知らせ
- 一度消去した曲は元に戻せません。

1 **ソース選択画面で** Music Rack
2 設定 ▶ 曲の消去
3 **消去する曲を含むアルバムの** 詳細
トラックリストが表示されます。
4 **消去する曲をすべて選択** ▶ 決定
5 はい

アルバム情報を更新する

新譜など、本機に内蔵のデータベースにアルバム情報が含まれていない場合は、曲名などが正しく表示されないことがあります。
その際は、SDカードとパソコンを使用してGracenoteサーバーから最新のアルバム情報を取得してください。
本機能を使用するには、インターネットに接続できるパソコン、情報を取得するためのPC用アプリケーション「ナビマスター S」が必要になります。→ P.163
SDカードを使用して、以下の流れでアルバム情報を取得します。

1 **ソース選択画面で** Music Rack
2 設定 ▶ タイトル編集
▶ 未取得タイトル情報書き出し
3 **アルバムを選択** ▶ 決定
4 はい
選択したアルバム情報がSDカードに書き出されます。

ここからはお手持ちのパソコンでの操作です。

5 **お使いのパソコンにて、「ナビマスター S」のCDタイトルキャッチャー機能を使用し、SDカードへアルバム情報を保存する**
アルバム情報が更新されます。

MEMO
- CDタイトルキャッチャー画面上のヘルプボタンをクリックすると、CDタイトルキャッチャー機能の取扱説明書を参照できます。

ここからは本機での操作です。

6 **ソース選択画面で** Music Rack
7 設定 ▶ タイトル編集
▶ タイトル取得
8 SDメモリーカード
SDカード内のアルバム情報が本機に取り込まれます。

SDカード・USBメモリーの音楽を聴く／ビデオを見る

本機では、お手持ちのSDカードやUSBメモリーに保存した音楽やビデオを視聴できます。
SDカードやUSBメモリーを使用して再生できるファイルは、以下のとおりです。
●MP3/WMA/AAC形式のミュージックファイル
●MPEG4/WMV/H.264形式のビデオファイル

⚠ 警告

- **運転者がビデオを見るときは、必ず安全な場所に停車させてください。**
- **本機は安全のため、停車時のみビデオの映像をご覧いただけます。走行中は、音声のみお楽しみいただけます。**

❗ お願い

- USBメモリーを車室内に放置しないでください。炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 接続中のUSBメモリーの上に乗ったり、物を上に置かないでください。故障の原因となります。

お知らせ

- 本機にiPodを接続している場合は、USBメモリーはご利用になれません。

MEMO

- SDカードおよびUSBメモリー内のファイルは、ファイル名順で再生されます。再生順序を変更したい場合は、ファイル名の先頭に数字を入力してください。

SDカードを再生する

1 **SDカードをセット**

2 **ソース選択画面で** SDメモリーカード
SDカードのファイルが再生されます。

USBメモリーを再生する

1 **USBメモリーを接続する**

2 **ソース選択画面で** USB/iPod
USBメモリーのファイルが再生されます。

SDカード・USBメモリー再生時の操作

ミュージックモードとビデオモードを切り替える

1 **ソース選択画面で** SDメモリーカード **または** USB/iPod

2 モード切替

3 ミュージック **または** ビデオ
選択した再生モードに切り替わります。

ビデオ画面

画面をタッチすると、メニューキーが表示されます。

戻る：
手動でメニューキーを非表示にする。

何も操作しないまま約5秒が過ぎると、画面に表示されているキーが非表示になります。

再生を停止する（ビデオ）

1 **再生中に画面をタッチ ▶ ▶/II を長押し**

ビデオの映像が非表示となり、再生が停止します。（レジューム停止）
レジューム停止中に ▶/II をタッチすると、停止した場所から再生がはじまります。

一時停止する（ビデオ）

1 **再生中に画面をタッチ ▶ ▶/II をタッチ**

ビデオの映像が表示された状態で、再生が一時停止します。
一時停止中に ▶/II をタッチすると、停止した場所から再生がはじまります。
一時停止中に ▶/II を長押しすると、ビデオの映像が非表示となり、再生が停止します。（レジューム停止）

早戻し／早送りする

1 **再生中に ⏮ （早戻し）、または ⏭ （早送り）を長押し**

— MEMO —
- ⏮ 、⏭ から指を離すと、通常の再生に戻ります。

前／次のトラックを再生する

1 **再生中に ⏮ または ⏭**

— MEMO —
- ⏮ を押すとトラックの先頭に戻り、さらに ⏮ を押すごとに前のトラックに移動します。

フォルダリスト／トラックリストから再生する

— MEMO —
- 走行中はフォルダリスト、トラックリストのスクロールはできません。

1 **ソース選択画面で SDメモリーカード または USB/iPod**

2 **（ミュージックの場合）再生中のフォルダを選択**

— MEMO —
- 再生中以外のフォルダを選択した場合は、トラックリストには切り替わりません。フォルダリストが表示されたまま、先頭の曲から再生がはじまります。トラックリストを表示するには、もう一度同じフォルダを選択します。

（ビデオの場合）画面をタッチ ▶ フォルダリスト ▶ 再生中のフォルダを選択

トラックリストが表示されます。

— MEMO —
- 手順2の画面で トラックリスト をタッチすると、再生中のフォルダのトラックリストが表示されます。

3 **曲またはビデオを選択**

選択した曲またはビデオから再生がはじまります。

前／次のフォルダを再生する（ミュージック）

1 **再生中に** 前フォルダ **または** 次フォルダ
前／次のフォルダに移動し、フォルダ内の先頭の曲が再生されます。

リピート・シャッフル・スキャン再生をする

1 **ソース選択画面で** SDメモリーカード **または** USB/iPod

2 機能

3 プレイモード切替

4 **目的の項目を選択**

※画面はミュージックの場合です。

リピートすべて：
すべての曲またはビデオをリピート再生する。

リピートフォルダ：
現在再生中のフォルダ内のすべての曲またはビデオをリピート再生する。

1トラックリピート：
現在再生中の曲またはビデオのみをリピート再生する。

シャッフルすべて：
全フォルダからランダムにフォルダを選択する。さらにそのフォルダ内からランダムに選択した曲を再生する。（ミュージックのみ）

シャッフルフォルダ：
現在再生中のフォルダの全曲をランダムに再生する。（ミュージックのみ）

スキャンすべて：
全曲の出だしを10秒間ずつ再生する。（ミュージックのみ）

SDカード・USBメモリーの設定をする

SDカード・USBメモリーの画面サイズを切り替える（ビデオ）

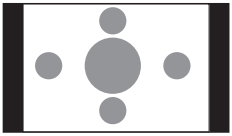
1 **ソース選択画面で** SDメモリーカード **または** USB/iPod

2 **画面をタッチ**

3 設定 ▶ 画面切替

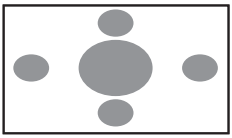
4 **画面サイズを選択**

オリジナル：



映像をサイズを変えずに中央に表示する。
映像と画面のサイズが異なる場合、画面の余った部分が黒く表示されます。

フルワイド：



映像を画面いっぱいに表示する。
映像と画面のサイズが異なる場合、映像の比率が変わって表示されます。

5 戻る

SDカード・USBメモリーの画質を調整する（ビデオ）

1 **ソース選択画面で** SDメモリーカード **または** USB/iPod

2 **画面をタッチ**

3 設定 ▶ 画質調整

4 **調整する項目を選択**

5 **－ または ＋ をタッチ**
画面の映像を見ながら画質を調整します。

6 戻る
調整した画質に設定されます。

MEMO
- 画質は昼画面と夜画面でそれぞれ設定できます。

状態表示を設定する（ビデオ）

ビデオの再生画面に、常に再生状態（フォルダ番号、トラック番号）を表示できます。

1 **ソース選択画面で** SDメモリーカード **または** USB/iPod

2 **画面をタッチ**

3 設定 ▶ 初期設定

4 常に状態を表示する
再生状態の表示が設定されます。

MEMO
- 再生状態の表示を解除する場合は、常に状態を表示する を再度タッチします。

アルバムアートワークを表示する（ミュージック）

SDカード、またはUSBメモリーに取り込まれているアルバムアートワーク（ジャケット写真）を表示できます。

1 **ソース選択画面で** SDメモリーカード **または** USB/iPod

2 機能 ▶ アルバムアートワークの表示

MEMO
- アルバムアートワークの取得には、数秒かかることがあります。

iPodミュージックを聴く／ iPodビデオを見る

本機では、iPodを接続してiPod内の音楽データやビデオ映像をお楽しみいただけます。
接続方法については、クイックガイドをご覧ください。

⚠ 注意

- **走行中は、iPod本体の操作はしないでください。**
- **iPodは、安全な場所に置いてご使用ください。**

❗ お願い

- iPodを車室内に放置しないでください。炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 接続中のiPodの上に乗ったり、物を上に置かないでください。故障の原因となります。
- 万一iPodが操作不能になったときはiPodをリセットし、再接続してください。iPodのリセット方法は、iPodの取扱説明書などで確認してください。
  リセット方法の例
  - iPodの場合：
    「センター」ボタンと「メニュー」ボタンをAppleのロゴが表示されるまで同時に長押しします。
  - iPod touchの場合：
    「スリープ／スリープ解除」ボタンと「ホーム」ボタンを、Appleのロゴが表示されるまで同時に長押しします。
    ※iPodをリセットして再接続しても動作しない場合は、リセット後、iPod単体で動作することを確認してから接続するようにしてください。

お知らせ

- iOS 6.1以降のiPod touch、iPhoneと本機を接続した場合、iPod側から操作できます。
  上記以外はiPod側からの操作はできません。
- 走行中は、操作できる項目が限定されます。

MEMO

- ミュージックファイル再生中のiPodを本機に接続した場合、再生していた曲の続きから再生されます。ビデオ対応iPodにおいてビデオ再生中に接続した場合は、iPodにより再生位置が異なることがあります。ビデオを見る場合、再度ビデオファイルを選択してください。

接続できるiPod

Made for iPod iPhone

本機は第5世代iPod®、iPod classic®、iPod nano®、iPod touch®、iPhone® 3G、iPhone 3GS、iPhone 4、iPhone 4s、iPhone 5、iPhone 5s、iPhone 5cに対応しています。
詳しくは以下の表をご覧ください。なお、iPodは本機に付属していません。お手持ちのiPodをお使いください。Dockコネクタ搭載のiPodを再生するには、別売のビデオ対応iPodケーブルが必要です。Lightningコネクタ搭載のiPodを再生するには、iPod/iPhoneに付属のケーブルを使用します。別売のUSB接続ジャックの差込部は、車両ごとに取付位置が異なります。

接続可能なiPod	備考
iPod（第5世代）	ビデオ再生可
iPod classic（80GB、120GB、160GB）※1	ビデオ再生可
iPod nano（第1世代、第2世代）	
iPod nano（第3世代、第4世代※1、第5世代）	ビデオ再生可
iPod nano（第6世代）	
iPod nano（第7世代）	ビデオ再生不可
iPod touch（第1世代※2,※3）	ビデオ再生不可
iPod touch（第2世代、第3世代、第4世代）	ビデオ再生可
iPod touch（第5世代）	ビデオ再生不可
iPhone 3G/iPhone 3GS/iPhone 4/iPhone 4s	ビデオ再生可
iPhone 5、iPhone 5s、iPhone 5c	ビデオ再生不可

※1 ビデオファイルのみ保存している場合、iPodが認識されない場合があります。1つでも音楽ファイルを保存すると解消されます。
※2 ソフトウェア2.0以降では、ビデオを再生することができます。ソフトウェアが2.0より古い場合は、ミュージックモードでのみお使いください。
※3「On-The-Go」は再生できません。iTunes®と同期後はプレイリストとして再生できます。

お願い

- 車両の電源をOFFにした後は、必ずiPodを取り外してください。接続したままではiPodの電源が切れない場合があるため、iPodの電源を消耗するおそれがあります。

お知らせ

- iPad®シリーズには対応しておりません。
- iPodの動作についてはすべてを保証するものではありません。
- iPodの接続対象機種一覧に記載があっても、iPodの機種やソフトウェアのバージョンによって動作しない場合があります。
- 本機と接続するときは、iPodのヘッドフォンなどのアクセサリーを使用しないでください。
- 接続可能な機種の情報については、以下をご覧ください。
  http://www.honda.co.jp/navi/support/ipodlist

MEMO
- iPodの動作が停止した場合、カテゴリーリストから曲やビデオを選択することで操作可能になるときがあります。
- iPodのトラックリピート機能を設定している場合は、正しく動作しないことがあります。
- iPodのシャッフル機能を設定していると正しく動作しない場合があります。その場合は、シャッフル機能の設定を解除してからご利用ください。
- iPodの機種によっては再生対象の曲やビデオの数が多い場合、タイトル表示やリスト表示ができない場合があります。
- エラーメッセージが表示された場合は、一度本機からiPodを取り外して再度接続してください。
- iPod touch、またはiPhoneをBluetooth接続している状態で、Bluetoothオーディオ再生、またはハンズフリー通話を行うと、iPodモードで音声が出力されないことがあります。iPod touch、iPhone本体から操作を行い、設定（オーディオ出力）をBluetooth（Gathers）からDockコネクタへ切り替えてください。または、一度本機からiPodを取り外して再度接続してください。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- Podcastなどを再生するとき、データのダウンロードが正常に完了していないと再生できないことがあります。

iPodミュージックを再生する

準 備

●Dockコネクタ搭載のiPodは、別売のビデオ対応iPodケーブルを別売のUSB接続ジャックに接続します。
●Lightningコネクタ搭載のiPodは、iPod/ iPhoneに付属のケーブルを別売のUSB接続ジャックに接続します。

1 iPodを接続する

2 ソース選択画面で USB/iPod

iPod内の曲が再生されます。

MEMO
- ビデオモードで再生された場合は、条件を指定して再生するとiPodミュージックに切り替えられます。→ P.143

iPodビデオを再生する

⚠ 警告

- **運転者がiPodビデオを見るときは、必ず安全な場所に停車させてください。**
- **本機は安全のため、停車時のみiPodビデオの映像をご覧いただけます。走行中は、音声のみお楽しみいただけます。**

❗ お願い

- iPod接続の際は、ビデオ対応iPodケーブル以外は使用しないでください。

MEMO
- iOSのバージョンによっては、iPodビデオ再生時に映像が表示されない場合があります。その際は、iPod側でミュージックアプリケーションをフォアグランドにすることで症状が改善される場合があります。

準 備

●別売のビデオ対応iPodケーブルを別売のUSB接続ジャックに接続します。
●別売のビデオ対応iPodケーブルのビデオ端子と音声端子を、別売のVTRコードに接続します。
●iPodの接続方法を「USB+VTR接続（アナログ音声）」に設定します。→ P.144

1 **iPodを接続する**

2 **ソース選択画面で** USB/iPod

iPodビデオが再生されます。
画面をタッチすると、メニューキーが表示されます。

戻る：
手動でメニューキーを非表示にする。

何も操作しないまま約5秒が過ぎると、画面に表示されているキーが非表示になります。

MEMO
- ミュージックモードで再生された場合は、条件を指定して再生するとiPodビデオの映像に切り替えられます。→ P.143

iPod再生時の操作

一時停止する

1 **(ミュージックの場合)**
▶/II をタッチ
(ビデオの場合)
再生中に画面をタッチ ▶
▶/II をタッチ
ミュージック、またはビデオの再生が一時停止します。
ビデオモードでは、映像が表示された状態で一時停止します。
一時停止中に ▶/II をタッチすると、停止した場所から再生がはじまります。

早戻し／早送りする

1 **再生中に ⏮ (早戻し)、または ⏭ (早送り) を長押し**

MEMO
- ⏮ 、⏭ から指を離すと、通常の再生に戻ります。

前／次のトラック・チャプターを再生する

1 **再生中に ⏮ または ⏭**
チャプターのあるビデオを再生中は、前、または次のチャプターの先頭から再生されます。

MEMO
- ⏮ を押すとトラックの先頭に戻り、さらに⏮ を押すごとに前のトラックに移動します。

リピート・シャッフル再生をする

1 **ソース選択画面で** USB/iPod

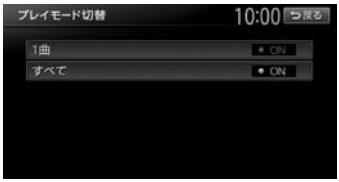
2 機能

3 シャッフル **または** リピート

4 **目的の項目を選択**
(シャッフルの場合（ミュージックのみ))

オフ：
シャッフル再生を解除する。
曲：
現在再生中のアルバム内の全曲をランダムに再生する。
アルバム：
全アルバムをランダムに再生する。
アルバム内の曲は順番に再生されます。

（リピートの場合）



1曲：
現在再生中の曲またはビデオのみをリピート再生する。

すべて：
iPod内のすべての曲またはビデオをリピート再生する。

選択した動作での再生がはじまります。

— お知らせ
- iPodの機種によっては、リピート再生ができない場合があります。

— MEMO
- シャッフル再生中に、iPodをビデオモードに切り替えると、シャッフル再生は自動的に解除されます。

タイトルリストから再生する（ミュージック）

1 ソース選択画面で USB/iPod

2 曲を選択

条件を指定して再生する

1 ソース選択画面で USB/iPod

2 メニュー

— MEMO
- メニュー をタッチすると、最後に表示したリスト画面が表示されるため、手順4 ～ 5の画面に進む場合があります。手順3の画面を表示させるには メニュー を長押ししてください。

3 ミュージック または ビデオ

4 目的の項目を選択

— MEMO
- 選択できる項目例：

（ミュージックの場合）
- プレイリスト／アーティスト／アルバム／曲／ Podcast ／ジャンル／作曲者

（ビデオの場合）
- ビデオプレイリスト／ムービー／ミュージックビデオ／テレビ番組／ビデオPodcast ／レンタルした映画など

トラックリストが表示されるまで、同様の操作を繰り返します。
リスト表示中に何も操作しないまま約10秒が過ぎると、iPod再生画面に戻ります。

5 曲またはビデオを選択

— MEMO
- 手順3 ～ 5で 再生画面 をタッチすると、iPod再生画面に切り替わります。
- 手順4 ～ 5で メニュー をタッチすると、1つ前の画面に戻ります。押し続けると、手順3の画面に戻ります。
- プレイリストが多階層になっていると、階層の深さによって不明な項目が表示されることがあります。

iPodの設定をする

iPodビデオの画質を調整する

1 ソース選択画面で USB/iPod

2 画質調整

3 調整する項目を選択

4 − または ＋ をタッチ
画面の映像を見ながら画質を調整します。

5 戻る

— MEMO
- 画質は昼画面と夜画面でそれぞれ設定できます。

iPodの接続方法を切り替える

iPodの接続方法を、「USB接続」または「USB＋VTR接続（アナログ音声）」から選択します。（初期値：USB接続）

準 備

- 別売のビデオ対応iPodケーブルを別売のUSB接続ジャックに接続します。
- 別売のビデオ対応iPodケーブルのビデオ端子と音声端子を、別売のVTRコードに接続します。

1 ソース選択画面で USB/iPod

2 機能 ▶ 接続方法

3 接続方法を選択

USB接続：
iPodではミュージックモードのみの対応にする。
iPodビデオモードへの切り替えはできません。

USB＋VTR接続（アナログ音声）：
VTR端子をiPodの映像、音声入力として使用する。
iPodでは、ミュージックモードとビデオモードの切り替えができます。
この設定を行うとソース選択画面の VTR は非表示になり、VTR機器はご利用できません。
「USB＋VTR接続（アナログ音声）」に設定している場合は、別売のビデオ対応iPodケーブルのビデオ端子と音声端子を、別売のVTRコードに接続する必要があります。

4 iPodの接続を一度解除し、再度接続する

アルバムアートワークを表示する（ミュージック）

iPodに取り込まれているアルバムアートワーク（ジャケット写真）を表示できます。

1 ソース選択画面で USB/iPod

2 機能 ▶ アルバムアートワークの表示

MEMO

- アルバムアートワークの取得には、数秒かかることがあります。

Bluetoothオーディオを聴く

Bluetoothに対応しているオーディオ機器を本機に登録して、音楽を再生できます。

お願い

- ポータブル機器を車室内に放置しないでください。炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。

お知らせ

- Bluetooth方式に対応しているオーディオ機器を使用してください。ただし、Bluetoothオーディオ機器（例 iPod/iPhoneなど）によっては、ご利用になれない場合やご利用いただける機能に制限がある場合があります。機能が非対応の場合は、ボタンやキーを押すことができません。または操作不可メッセージが表示されます。ただし、オーディオ機器により操作不可メッセージも表示されないことがあります。
- Bluetoothオーディオ機器について詳しくは、各取扱説明書をご覧ください。
- Bluetoothオーディオ機器の収納場所、距離によっては、接続できない場合や音飛びが発生する場合があります。できるだけ通信状態の良い場所に置くことをおすすめします。
- 走行中はペアリングを実行できません。
- Bluetoothオーディオは、本機からの自動接続を行いません。接続したいオーディオ機器を操作し、接続を行ってください。

MEMO

- Bluetoothオーディオ機器は、ハンズフリー機器とあわせて5台までペアリングできます。すでに5台ペアリングしている場合は、ペアリングの情報を1台分消去してから、新しく登録してください。
- iPhoneをBluetoothオーディオとして再生中、iPhone側でBluetooth画面を表示すると、音飛びが発生することがあります。このような場合は、Bluetooth画面の表示を閉じれば正常に再生されます。
- Bluetoothオーディオ対応の携帯電話によっては、ハンズフリープロファイルを接続すると同時に、携帯電話側から自動でオーディオプロファイルの接続を行う機器があります。
- 接続していても音声が出力されない場合は、オーディオ機器からプロファイル切断し、再度接続してください。

準備

●オーディオ機器を本機に登録（ペアリング）します。→ P.90

Bluetoothオーディオを再生する

お知らせ

- Bluetoothオーディオ機器の種類によっては、本機からの再生、一時停止などの操作ができないことがあります。この場合、Bluetoothオーディオ機器側から操作してください。詳しくは、Bluetoothオーディオ機器の取扱説明書をご覧ください。

1 ソース選択画面で Bluetooth AUDIO

Bluetoothオーディオが再生されます。

MEMO

- Bluetoothオーディオ機器によっては、自動で再生が開始されないことがあります。その場合は、▶/II をタッチするか、またはBluetoothオーディオ機器側で再生させてください。
- 再生を一時停止、または再開するには ▶/II をタッチします。
- Bluetoothオーディオ機器によっては、メニュー および トラックリスト が表示されない場合があります。

Bluetoothオーディオ再生時の操作

早戻し／早送りする

1 再生中に ⏮ （早戻し）、または ⏭ （早送り）を長押し

MEMO

- ⏮ 、⏭ から指を離すと、通常の再生に戻ります。

前／次の曲を再生する

1 再生中に ⏮ または ⏭

— MEMO
- ⏮ を押すと曲の先頭に戻り、さらに ⏮ を押すごとに前の曲に移動します。

トラックリストから再生する

— お知らせ
- この機能は、AVRCP Ver1.4に対応したBluetoothオーディオのみ使用できます。Bluetoothオーディオ機器によっては、本機能は使用できません。

— MEMO
- リスト操作ができないときは、Bluetoothオーディオ機器側の再生プレーヤーが起動しているかどうかを確認してください。

1 ソース選択画面で Bluetooth AUDIO

2 トラックリスト

3 曲を選択

選択した曲の再生がはじまります。

条件を指定して再生する

フォルダやカテゴリーから、再生したい曲を探して再生できます。

— お知らせ
- この機能は、AVRCP Ver1.4に対応したBluetoothオーディオのみ使用できます。Bluetoothオーディオ機器によっては、本機能は使用できません。

— MEMO
- リスト操作ができないときは、Bluetoothオーディオ機器側の再生プレーヤーが起動しているかどうかを確認してください。

1 ソース選択画面で Bluetooth AUDIO

2 メニュー

3 目的の項目を選択

— MEMO
- 選択できる項目は、Bluetoothオーディオ機器によって異なります。

トラックリストが表示されるまで、同様の操作を繰り返します。
リスト表示中に何もタッチしないで10秒が過ぎると、Bluetoothオーディオ再生画面に戻ります。

4 曲を選択

— MEMO
- 手順3、4で 再生画面 をタッチすると、Bluetoothオーディオ再生画面に切り替わります。
- 手順3、4で メニュー をタッチすると、1つ前の画面に戻ります。長押しすると、手順2の画面に戻ります。

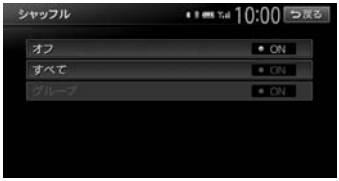
リピート・シャッフル再生をする

お知らせ
- この機能は、AVRCP Ver1.3以上に対応したBluetoothオーディオのみ使用できます。Bluetoothオーディオ機器によっては、本機能は使用できません。

1 ソース選択画面で Bluetooth AUDIO

2 機能 ▶ シャッフル または リピート

3 目的の項目を選択



※画面はシャッフルの場合です。

(シャッフルの場合)

オフ：
全曲シャッフル、またはグループシャッフルを解除する。

すべて：
Bluetoothオーディオ内の全曲をランダムに再生する。

グループ：
現在再生中のグループ内の全曲をランダムに再生する。

(リピートの場合)

1曲：
現在再生中の曲のみをリピート再生する。

すべて：
Bluetoothオーディオ内の全曲をリピート再生する。

グループ：
現在再生中のグループ内の全曲をリピート再生する。

接続するBluetoothオーディオ機器を切り替える

本機に複数のBluetoothオーディオ機器が登録されている場合に、接続する機器を切り替えられます。

1 ソース選択画面で Bluetooth AUDIO

2 接続機器の選択

3 接続したい機器を選択→ P.92

MEMO
- Bluetoothオーディオ再生画面の「使用機器1」、または「使用機器2」をタッチしても、接続する機器を切り替えられます。

Memo

各種設定

ナビゲーションに関するさまざまな操作、オーディオの音質、画面表示などをお好みで設定できます。

設定メニュー画面から各種設定を行う…… 150
ナビゲーションの設定をする…… 150
地図上のアイコンの設定をする…… 151
走行軌跡の設定をする…… 151
ルート案内の設定をする…… 152
交差点ガイドの設定をする…… 153
案内音声の設定をする…… 153
到着予想時刻の計算基準速度を設定する…… 154
オートリルートについて…… 154
VICS情報の設定をする …… 154
ルート探索条件の設定をする…… 155
探索条件の設定をする…… 155
ルートの学習の設定をする…… 155
その他の探索条件を設定する…… 156
その他のナビゲーション設定をする…… 156
自車位置を修正する…… 157
言語の選択をする…… 157
その他の設定をする…… 157
オーディオの音質を設定する…… 158
ヴォーカルの音量バランスと
サラウンドサウンドを調整する…… 159
スピーカーの音量バランスを調整する…… 159
音質効果メモリーを選んで設定する…… 159
お好みの音質効果を設定する…… 160
Volume Smootherを調整する …… 160
オーディオ設定を初期値に戻す…… 161
画面の設定をする…… 161
昼画面と夜画面を切り替える…… 161
ナビゲーション画面の画質を調整する…… 161
目的地メニュー画面の表示項目を入れ替える…… 161
オープニング画面の設定をする…… 162
ナビゲーションの音量を調整する…… 162
SDカードのデータを編集する …… 162
ナビマスター Sについて …… 163
登録地点を書き出す…… 163
登録地点を取り込む…… 163
登録地点のグループ名を変更する…… 163
登録地点を消去する…… 163
オープニング画面の取り込み…… 164
TVサーチ情報の取り込み …… 164
OPTIONボタンの操作方法 …… 165
OPTIONボタンに機能を割り付ける …… 165

設定メニュー画面から各種設定を行う

設定メニュー画面では、ナビゲーションやオーディオなどに関するさまざまな設定ができます。
この操作は、設定メニュー画面から行います。

MENU ▶▶ 設定 ▶▶

設定メニュー画面

※走行中はタッチできる項目が限定されます。

ナビゲーションの設定をする

1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション

2 目的の項目を選択

登録データの編集・消去：
自宅、登録地点、登録ルートの編集・消去を行う。
- 自宅→ P.26
- 登録地点→ P.58
- 登録ルート→ P.60
- 登録の消去
  → P.51「目的地の履歴を消去する」、
  → P.59「リストから地点を消去する」、
  → P.60「リストからルートを消去する」
- SDメモリーカードに登録地点をバックアップ→ P.163
- バックアップデータの取り込み
  → P.163
- SDメモリーカード内バックアップデータの消去→ P.163

地図表示変更：
地図表示モードの切り替えを行う。
→ P.33

アイコンの表示：
地図上に表示されるアイコンに関する設定を行う。→ P.151

軌跡の設定：
地図上に表示される軌跡（車の走行跡）に関する設定を行う。→ P.151

ルート案内の設定：
ルート案内時の案内表示、音声案内に関する設定を行う。→ P.152

VICSの設定：
VICS情報に関する設定を行う。
→ P.154

ルート探索条件の設定：
ルート探索条件に関する設定を行う。
→ P.155

その他の設定：
その他、ナビゲーションの便利な設定を行う。→ P.156

地図上のアイコンの設定をする

1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション

2 アイコンの表示

3 目的の項目を選択

施設アイコンの表示：
地図上に表示される施設を示すアイコンの種類を選択する。（初期値：カーディーラー（Honda Carsのみ）、中古車販売（ホンダオートテラス店のみ）がON）
・複数のジャンルを選択できます。
・詳細 をタッチすると、ジャンル内のブランドまで指定できます。

検索アイコンの表示：
周辺検索で探した施設に表示されるアイコンの表示／非表示を切り替える。（初期値：ON）→ P.45「自車位置周辺／目的地周辺から探す」

検索アイコンの消去：
検索アイコンの表示を地図上から消去する。→ P.48

交通事故多発地点の表示：
交通事故多発地点アイコン を地図上に表示するかどうかを選択する。（初期値：OFF）
200m以下のスケールで表示されます。市街地図、立体地図では表示されません。

走行軌跡の設定をする

車が走行すると、設定された間隔でポイントが置かれます。これを走行の軌跡情報といいます。

1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション

2 軌跡の設定

3 目的の項目を選択

軌跡の表示：
地図上の軌跡マークの表示／非表示を切り替える。（初期値：ON）
→ P.74「ルート案内中の地図画面」

軌跡の間隔：
走行軌跡のポイントを置く間隔を設定する。（初期値：200m）
選択した間隔ごとにポイントが置かれます。走行軌跡のポイントは、3,000を超えると古いものから順に消去されます。
軌跡の間隔を長く設定すると、長い距離の軌跡を表示できるようになります。

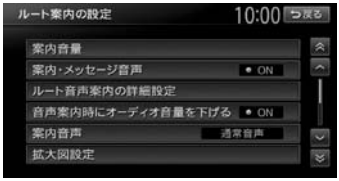
軌跡の消去：
走行軌跡の記録（本機への保存情報）を消去する。
一度消した走行軌跡は再度表示できません。

ルート案内の設定をする

1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション

2 ルート案内の設定

3 目的の項目を選択



案内音量：
音声案内の音量を、通常走行時と高速走行時とに分けて設定する。（初期値：レベル6）

お知らせ
- 走行速度が80km/hを超えると、高速走行時の音量設定で案内されます。

案内・メッセージ音声：
音声案内などのナビゲーション音声を出力するかどうかを選択する。（初期値：ON）

ルート音声案内の詳細設定：
音声案内や案内表示に関する詳細設定を行う。
- 交差点ガイド設定→ P.153
  交差点での音声案内および案内表示を設定する。
- レーンガイド
  ルート案内中の通過交差点に対して、レーン規制に注意が必要な場合に音声で案内をする。（初期値：ON）
- 料金ガイド（初期値：ON）
- 合流ガイド（初期値：ON）
- 踏み切りガイド
  踏み切りでの音声案内および案内表示を設定する。（初期値：案内中に表示する）

音声案内時にオーディオ音量を下げる：
音声案内時、一時的にオーディオの音量を下げる。（初期値：ON）

案内音声：
音声案内の言語を選択する。（初期値：通常音声）→ P.153

拡大図設定：
高速入口と高速分岐において、拡大図を表示するかどうかを、それぞれ選択する。
- 高速入口の画像表示（初期値：ON）
  → P.75
- 高速分岐の画像表示（初期値：ON）
  → P.76

到着予想時刻の表示切替：
到着予想時刻を表示する地点を設定する。（初期値：目的地）

AV画面での割り込み：
オーディオ画面表示中の、交差点案内の割り込み表示／非表示を切り替える。（初期値：ON）
「ON」に設定すると、オーディオOFFの画面の状態でも、交差点案内は表示されます。

到着予想時刻の速度設定：
到着予想時間を計算するための基準となる速度を設定する。→ P.154

その他の設定：
ルート案内に関するその他の設定をする。
- 一般道の方面看板表示／通過交差点の情報表示
  一般道の方面看板表示と通過交差点の情報表示をするかどうかを、それぞれ選択する。（初期値：常時表示する）
- オートリルート
  ルート案内中、ルートを外れてしまったときに、自動的に元のルートに戻るように再設定する。（初期値：ON）
  → P.154
- ETCレーンの表示
  本機に接続しないETCユニットをお車に装着した場合に使用する。（初期値：ON）
  設定がONの場合は、ETCレーンガイドにてETCレーン側を案内します。また、設定がOFFの場合は、一般レーン側を案内します。

お知らせ
- ETCユニットがナビに接続されているときは、「ETCレーンの表示」の項目は表示されません。

交差点ガイドの設定をする

1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション

2 ルート案内の設定

3 ルート音声案内の詳細設定

4 交差点ガイド設定

交差点ガイド設定画面が表示されます。
現在の設定状態が、画面右側の「ジャストガイド」「交差点ガイド」「事前ガイド」に表示されます。

5 **目的の項目を選択**

ジャストガイド：
交差点直前で音声案内を行う。（初期値：ON）

ランドマークガイド：
交差点でのランドマーク表示と、ランドマークを含めた音声案内を行う。（初期値：ON）
例：「ON」の場合
まもなく、○○○（施設名）の手前を右方向です。
「OFF」の場合
まもなく、右方向です。

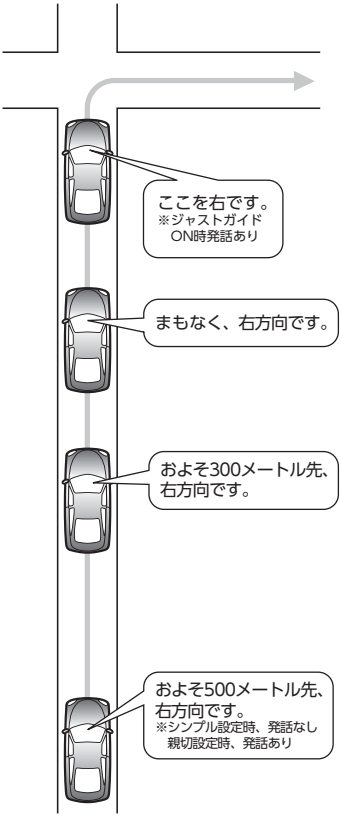
親切設定：
交差点の500m手前と300m手前で、事前に音声案内を行う。

シンプル設定：
交差点の300m手前で音声案内を行う。

■ ガイド設定と音声案内回数

	シンプル設定 ON	親切設定 ON
ジャストガイド ON	音声案内3回	音声案内4回
ジャストガイド OFF	音声案内2回	音声案内3回

■ 一般道でのガイド位置と発話内容



案内音声の設定をする

音声案内の声を選択できます。

お知らせ

- 案内音声使用時は、現在地 を長押ししても音声案内を行いません。

1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション

2 ルート案内の設定

3 案内音声

4 **音声を選択**

選択した音声が設定されます。

到着予想時刻の計算基準速度を設定する

1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション

2 ルート案内の設定

3 到着予想時刻の速度設定

4 各設定の ＋ または － をタッチ

到着予想時刻の計算基準となる速度が設定されます。（初期値：自動計算）

自動計算：
統計交通情報などを考慮して、自動で速度を設定する。
この設定がONのときは、下記、道路の種類ごとの速度設定は考慮されません。

高速道路：
高速道路走行時の速度を5 ～ 120km/hに設定する。

その他有料道路：
有料道路走行時の速度を5 ～ 100km/hに設定する。

国道・都道府県道・主要道：
国道・都道府県道・主要道走行時の速度を5 ～ 80km/hに設定する。

細街路：
細街路走行時の速度を5 ～ 30km/hに設定する。

設定を初期状態に戻す：
それぞれの設定速度を初期値に戻す。

オートリルートについて

オートリルートは、自動的に新しいルートに切り替えて案内を再開する機能です。オートリルート機能を利用しない場合は、「オートリルート」をOFFに設定してください。
→ P.152「その他の設定」
オートリルートは、以下の場合に行われます。

お車がルートを外れている場合
お車がルートから外れて一定距離以上走行しているときに、自車位置から目的地までのルートを自動的に再設定します。

ルート上を走行中に最適なルートが探索された場合
渋滞や規制など、ルート上の交通情報の変化に対して自動的に最適なルートを設定します。
この探索には以下の設定が必要な場合があります。
- 「リアルタイム交通情報を考慮」が「ON」→ P.156
- 「時間規制道路」が「規制に従う（推奨）」→ P.156

VICS情報の設定をする

1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション

2 VICSの設定

3 目的の項目を選択

VICS表示の対象道路：
VICS情報表示の対象となる道路を選択する。（初期値：すべての道路）

地図上のVICS表示設定：
表示するVICS情報の項目を選択する。
- 渋滞・混雑（初期値：ON）
- 順調（初期値：OFF）
- 事故・規制情報（初期値：ON）
- 駐車場情報（初期値：ON）
- SA・PAの駐車場情報（初期値：ON）

FM多重情報の受信地域選択：
FM多重情報の受信地域の設定を行う。
（初期値：オート選局）
・ オート選局 をタッチすると、自車位置から最も適した地域を自動的に受信します。
・ 都道府県選択 をタッチすると、都道府県を選択できます。

ルート探索条件の設定をする

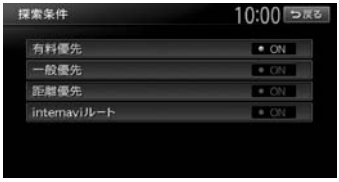
1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション
2 ルート探索条件の設定
3 目的の項目を選択

探索条件：
目的地を設定してから、ルート探索の優先路を選択する。→ P.155
ルートの学習：
ルートの学習に関する設定を行う。
→ P.155
その他の条件：
その他の探索条件を設定する。→ P.156

探索条件の設定をする

ルート探索時の優先路を設定します。

1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション
2 ルート探索条件の設定
3 探索条件
4 目的の項目を選択



有料優先：
有料道路を優先的に使用する。
目的地までの所要時間が短くなるルートです。
一般優先：
一般道路を優先的に使用する。
目的地までの所要時間が短くなるルートです。
距離優先：
一般道路を優先的に使用する。
目的地までの距離が短くなるルートです。
internaviルート：
インターナビで取得した目的地探索ルートで案内する。

ルートが設定されているときは、選択した道路を優先して、ルートを再探索します。

ルートの学習の設定をする

自宅から一定範囲（半径約3km）の走行履歴を考慮するかどうかを設定します。何度も走行した道路ほどルートに採用されやすくなります。

準備

●自宅を登録する→ P.26

1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション
2 ルート探索条件の設定
3 ルートの学習 ▶ 学習したルートを考慮

学習したルートをリセット：
ルートの学習をリセットする。
地図データを更新した場合も、学習内容はいったんリセットされ、再び学習が行われます。

お知らせ
- ルートの学習は、走行履歴を使用していますが、お客様が想定される結果と合わない場合があります。
- internaviルートには学習結果は反映されません。

その他の探索条件を設定する

ルート案内に関するいろいろな探索条件が選択できます。

1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション

2 ルート探索条件の設定

3 その他の条件

4 目的の項目を選択

時間規制道路：
時間規制道路の時間規制を考慮するかどうかを選択する。(初期値:規制に従う(推奨))

冬季通行止め：
冬季通行規制を考慮するかどうかを選択する。(初期値：規制に従う（推奨))

フェリー航路を使う：
フェリー航路を使用するかどうかを選択する。(初期値：OFF)

統計交通情報を考慮：
統計交通情報を考慮するかどうかを選択する。(初期値：ON)
統計交通情報とは、過去の1年分のVICS情報から、曜日、時間により分類し、統計処理したデータです。

リアルタイム交通情報を考慮：
FM VICS情報などの交通情報を考慮するかどうかを選択する。(初期値：ON)

スマートICを考慮：
スマートICを出入口として考慮するかどうかを選択する。(初期値：OFF)
- 設定をONにすると、ETCユニットの接続、ETCカードの挿入の有無にかかわらず、スマートICを利用する経路を設定します。

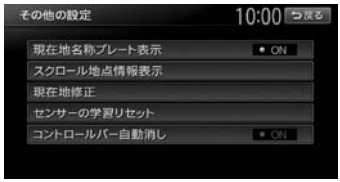
お知らせ
- internaviルートには、「スマートICを考慮」以外の設定内容は反映されません。
選択されたinternaviルートタイプの内容に基づいて、インターナビ情報センターで探索したルートが案内されます。

その他のナビゲーション設定をする

1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション

2 その他の設定

3 目的の項目を選択



現在地名称プレート表示：
地図画面で、マルチインフォメーションキーを表示するかどうかを選択する。(初期値：ON) → P.29

スクロール地点情報表示：
スクロール先の緯度・経度、マップコードの表示／非表示、また、スクロール中にカーソルをアイコンに合わせた場合の情報の表示／非表示を切り替える。(初期値：すべてON)
- 登録地点アイコン情報
- VICSアイコン情報（2D地図のみ）
- 行き先アイコン情報
- 緯度・経度情報
- マップコード

現在地修正：
自車位置を修正する。→ P.157

センサーの学習リセット：
距離係数と3Dセンサーの学習記録を初期化（リセット）する。

— MEMO —
- タイヤ交換時や、タイヤチェーン着脱時などに学習記録を初期化すると、学習時間が短くなります。
→ P.9「自車位置の精度について」

コントロールバー自動消し：
地図上のコントロールバーの表示を自動的に非表示にするかどうかを選択する。（初期値：OFF）

自車位置を修正する

1 MENU ▶ 設定 ▶ ナビゲーション
2 その他の設定
3 現在地修正
4 正しい自車位置に移動→ P.39
5 場所を確認 ▶ 決定
6 または をタッチ ▶ 決定

自車位置が修正され、現在地地図画面に戻ります。

言語の選択をする

画面を選択した言語で表示したり、選択した言語で音声案内を行います。

1 MENU ▶ 設定
2 言語選択
3 目的の項目を選択

Text：
画面を選択した言語で表示する。（初期値：Japanese）

— お知らせ —
- 地図画面表示、目的地検索の施設リスト、オーディオ画面の情報表示など一部の表示は言語切り替えの対象となりません。

Voice：
音声案内の言語を選択する。（初期値：Japanese）

— MEMO —
- この設定は、「案内音声」と連動しています。→ P.153

その他の設定をする

車両設定など、各種の設定を行います。

1 MENU ▶ 設定
2 その他設定
3 目的の項目を選択

時計：
時計の表示方法を設定する。→ P.20

車両設定：
本機を使用する車両を設定する。（初期値：小型車両（5/7ナンバー））

VTR接続設定※1**：**
VTR機器接続の設定を切り替える。

リアカメラ次回表示ビュー設定※2**：**
次回リアカメラを表示するときのビューを設定する。

フロントカメラ設定／
コーナーカメラ設定※3：
別売のフロントカメラ／コーナーカメラの設定をする。

ETC設定※4：
ETCの設定をする。→ P.84

セキュリティイルミ：
車両の電源がOFFのときに操作パネルのイルミを点滅させて、盗難を抑制する。（初期値：ON）
バッテリーまたは本機を一度車から取り外した場合は、セキュリティコードを入力してセキュリティロックを解除するまで操作パネルのイルミは点滅します。

販売店：
一部の機能が正常に動かなくなるため使用しないでください。

※1 VTR接続コード接続時のみ設定できます。
※2 別売のリアワイドカメラ接続時のみ設定できます。
※3 別売のフロントカメラ／コーナーカメラ接続時のみ設定できます。
※4 別売のETCユニット接続時のみ設定できます。

MEMO
- 車両設定が正しく設定されていないと、高速道路料金が正しく表示されない場合があります。

オーディオの音質を設定する

準備
●オーディオをONにします。→ P.104

1 MENU ▶ 設定 ▶ オーディオ

2 目的の項目を選択

Virtual Stage Enhancer（バーチャルステージエンハンサー）：
ヴォーカル成分とサラウンド成分を抽出し調整することで、臨場感のあるサラウンドサウンドを実現する。（初期値：LOW）→ P.159
・Vocal Image Control（ヴォーカルイメージコントロール）
ヴォーカルの音量バランスを調整することで、ヴォーカルの音像を前後左右に移動する。（初期値：0）→ P.159

Balance/Fader（バランス/フェーダー）：
前後左右のスピーカーの音量バランスを調整する。（初期値：0）→ P.159

グラフィックEQ：
あらかじめ設定された音質効果メモリーからお好みの音質を選択する。（初期値：Flat）→ P.159
音質効果メモリーを調整することもできます。

〈ユーザーカスタマイズ〉：
音質効果メモリーを作成して保存する。→ P.160「お好みの音質効果を設定する」

Loudness（ラウドネス）：
音量の大きさに合わせて、高音と低音を強調する。（初期値：3）

Sound Restorer（サウンドリストアラー）：
圧縮オーディオに対して高音域を補完することで、圧縮前の原音に音質を近づける。（初期値：LOW）

車速連動音量：
加速すると音量が自動で上昇し、減速すると音量が自動で下降するように調整する。（初期値：MID）
レベルの数値が大きいほど、音量の上がる幅が大きくなります。

Virtual Bass（バーチャルバス）：
低音域の倍音成分を付加することで重低音を増強し、豊かな低音再生を可能とする。（初期値：LOW）

Volume Smoother（ボリュームスムーサー）：
再生ソースによる音量レベル差や、テレビの番組とCMの音量レベル差、映画のシーンごとの音量レベル差などを検知し、音量レベルを自動調整する。（初期値：OFF）→ P.160

Intelligent Tune（インテリジェントチューン）：
Virtual Stage Enhancer、Vocal Image Control、Sound Restorer、Virtual Bass、Volume Smoootherを設定する。（初期値：OFF）
ONにするとそれぞれ設定を変更できます。

その他設定：
以下の設定を行う。
・オーディオ設定の初期化→ P.161

ヴォーカルの音量バランスとサラウンドサウンドを調整する

Virtual Stage Enhancerは、ステレオ音源からヴォーカル成分とサラウンド成分を抽出し、フロント・リアスピーカーにバランス良く振り分けることで、臨場感のあるサラウンドサウンドになるよう調整します。
Vocal Image Controlは、ステレオ音源の中央に定位するヴォーカルや主要な楽器などの成分の音量バランスを調整します。スピーカーの構成や乗車人数などに応じて、ヴォーカルの左右のバランスや奥行き感を調整してください。

お知らせ
- Virtual Stage EnhancerがOFF以外の場合は、Vocal Image ControlのF/R設定値（ヴォーカル音像の前後位置）は「0」になり変更できません。

1 MENU ▶ 設定 ▶ オーディオ
2 Intelligent Tune（ONになっていることを確認）
3 Virtual Stage Enhancer
4 ＋、－ をタッチして設定

Vocal Image Control：
ヴォーカルの音量バランスを調整する。
初期値に戻す をタッチすると、Vocal Image Controlが初期値に戻ります。

スピーカーの音量バランスを調整する

Balance/Faderは、全体の音量バランスを調整します。

1 MENU ▶ 設定 ▶ オーディオ
2 Balance/Fader
3 ▲、▼、◀、▶ をタッチして設定

初期値に戻す：
音量バランスを初期値に戻す。

音質効果メモリーを選んで設定する

お好みの音質を選んで設定できます。

1 MENU ▶ 設定 ▶ オーディオ
2 グラフィックEQ

3 音質を選択

Bass.B：重低音の増強
High.B：中高域の増強
Acoustic：中域（人の声）の増強
Impact：低域と高域の増強
Smooth：しっとりと落ち着いた感じ
Flat：原音、EQをOFF

お好みの音質効果を設定する

1 MENU ▶ 設定 ▶ オーディオ
2 グラフィックEQ
3 User 1 、User 2 、または User 3
4 調整する
5 音質効果を設定

▲、▼：
低音、中音、高音それぞれの帯域の強弱を調整する。
Flat：
各帯域の設定を「0」に戻す。

MEMO
• 次回からは手順3で同じ設定を呼び出せます。

Volume Smootherを調整する

■ Volume Smootherとは

Volume Smootherは、あらゆる音楽ソースやシーンにおける音量レベル差を自動調整し、音量補正を行う機能です。Volume SmootherをONにすると、オーディオ信号の聴感上の音量レベルを常時モニター、調整します。その結果、音量レベル差を一定の範囲に抑えて視聴できます。音量レベル差は以下のようなケースで起こります。

●CDを聴いているときとラジオを聴いているときの音量レベル差
●TVを見ているときの番組とCMの音量レベル差、または番組ごとの音量レベル差
●DVDなどで映画を見ているときの爆発シーンなど大きな音量のシーンと、静かなシーンとの音量レベル差

Volume SmootherをONにすると、これらのケースでも音量操作をする必要がありません。各ソースを聴こえやすい音量レベルで視聴できます。

■ Volume Smootherのレベルを調整する

Volume Smootherのレベルを調整することで、「音量補正」の効果を変えられます。「LOW」→「MID」→「HIGH」の順で、音量補正の効果が高くなります。

1 MENU ▶ 設定 ▶ オーディオ
2 Intelligent Tune **（ONになっていることを確認）**
3 Volume Smoother
4 ＋ 、－ **をタッチして設定**
Volume Smootherのレベルが調整されます。

MEMO
• テレビやDVDなど、音量レベル差のあるソースを視聴するときは、「MID」または「HIGH」の設定をおすすめします。
• Volume Smootherは、映像ソース（テレビ、DVD）とその他のソースで、それぞれ設定できます。ソースを切り替えると、Volume Smootherも各設定値に切り替わります。

オーディオ設定を初期値に戻す

すべてのオーディオ設定値のほか、ガイド音量、電話の音量、各オーディオソースの音量を初期値に戻します。

1 MENU ▶ 設定 ▶ オーディオ
2 その他設定
3 オーディオ設定の初期化
4 はい

画面の設定をする

昼画面と夜画面を切り替える

昼間にヘッドライトを点灯させていて、画面が見づらい場合などは、手動で昼画面に切り替えると画面が見やすくなります。

— MEMO —
- スモールランプを点灯させると、自動的に夜画面に切り替わります。

1 MENU
2 ☼
タッチするたびに、昼画面と夜画面が切り替わります。

ナビゲーション画面の画質を調整する

1 MENU ▶ 設定 ▶ 画質調整
2 明るさ または コントラスト
3 ＋ または －
4 戻る
調整した画質に設定されます。

— MEMO —
- 画質は昼画面と夜画面でそれぞれ設定できます。
- オーディオ映像画面（映像ソース間で共通）、カメラ画面の画質調整については、各ページの説明をご覧ください。

目的地メニュー画面の表示項目を入れ替える

目的地メニュー画面のキーの順序を変更できます。選択した項目を、目的地メニューの左側に割り当てます。

— お知らせ —
- メニュー表示を日本語以外の言語に設定しているときは、本操作は行えません。

1 MENU ▶ 目的地
2 ⇄ をタッチ

3 選択解除
4 項目を3箇所選択

初期に戻す：
初期設定値（名称、電話番号、住所）に戻す。

3項目を選択しないと、決定 は表示されません。

5 決定
選択した項目が、目的地メニュー画面の左側に表示されます。

オープニング画面の設定をする

本機を起動したときに表示されるオープニング画面を設定します。

お知らせ
• 走行中は本操作を行えません。

準備

●SDカードを使って、オープニング画面を本機に取り込んでおきます。→ P.164

1 MENU ▶ 設定

2 オープニング画面

3 オープニング画面を選択 ▶ 決定

消去：
SDカードから取り込んだオープニング画面データを消去する。

オリジナル：
工場出荷時の画像に戻す。

4 はい

選択したオープニング画面が設定されます。

ナビゲーションの音量を調整する

1 MENU ▶ 設定

2 音量調整

3 目的の項目を選択

案内音量※1：
音声案内の音量を、通常走行時と高速走行時とに分けて設定する。（初期値：レベル6）

案内・メッセージ音声※1：
音声案内などのナビゲーション音声を出力するかどうかを選択する。（初期値：ON）

着信音量※2：
電話の着信音量を調整する。（初期値：レベル4）

受話音量※2：
電話の受話音量を調整する。（初期値：レベル4）

送話音量※2：
電話の送話音量を調整する。（初期値：レベル3）

操作音：
ボタンやタッチキーを操作したときに、ビープ音を鳴らすかどうか、または操作音の種類を選択する。（初期値：操作音1）

Intelligent VOIICE応答音量：
Intelligent VOICEアプリケーション利用時の応答音量を、通常走行時と高速走行時とに分けて設定する。（初期値：レベル6）

※1「ルート案内の設定」と連動しています。→ P.152

※2 電話設定画面の「音量調整」と連動しています。→ P.98

お知らせ
• ガイド音量とIntelligent VOICE応答音量の場合、走行速度が80km/hを超えると、高速走行時の音量設定で案内されます。
• 車両のスマートパーキングアシストシステム（駐車時に音声で案内する機能）が作動中の場合でも、当項目の音量は調整できます。

SDカードのデータを編集する

お願い
• 操作中は電源を切らないでください。
• SDカードにアクセスしているときは、本機に関する一切の操作を行わないでください。

準備

●SDカードを本機に挿入します。
本機にデータの取り込みを行う場合は、あらかじめパソコンを使用してSDカードにファイルを保存してください。

ナビマスター Sについて

本機に取り込む画像のサイズ調整や、TVサーチ情報の更新には、弊社で提供しておりますPC用アプリケーション「ナビマスター S」が必要です。「ナビマスター S」は、以下の弊社Webサイトからダウンロードできます。
http://www.honda.co.jp/navi/versionup/vxm-152vfi/
「ナビマスター S」の操作方法は、アプリケーションの提供とあわせてご案内します。

登録地点を書き出す

本機の登録リストから登録地点を選択して、SDカードに書き出せます。SDカードに保存できる登録地点の数は、1グループにつき450件、最大10グループ4500件です。
登録地点の登録は、「登録リストに登録する」をご覧ください。→ P.58

1 MENU ▶ 設定 ▶ SDメモリーカード
2 登録地点
3 バックアップ
4 登録地点を選択 ▶ 決定
5 グループを選択 ▶ はい

MEMO
- 登録地点の書き出しはバックアップデータとして保存されます。

登録地点を取り込む

SDカード内の登録地点を、本機の登録リストに取り込めます。(最大400件)

1 MENU ▶ 設定 ▶ SDメモリーカード
2 登録地点
3 バックアップデータの取り込み
4 グループを選択
5 登録地点を選択 ▶ 決定

登録地点のグループ名を変更する

1 MENU ▶ 設定 ▶ SDメモリーカード
2 登録地点
3 SDメモリカード内グループフォルダ名の編集
4 グループを選択
5 名称を入力 ▶ 決定

登録地点を消去する

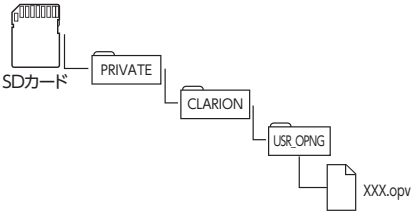
1 MENU ▶ 設定 ▶ SDメモリーカード
2 登録地点
3 SDメモリーカード内バックアップデータの消去
4 登録地点が所属するグループを選択
5 登録地点を選択 ▶ 決定
6 はい

オープニング画面の取り込み

オープニング画面とは、本機起動時に画面に表示される画像のことです。デジタルカメラなどで撮影したお好みの画像ファイルをオープニング画面としてお使いいただけます。→ P.162
本機では、SDカード内のオープニング画面データを取り込めます。(最大20個)

お知らせ
- オープニング画面として取り込んだ画像は、ほかの用途には使えません。

オープニング画面は、以下の条件をすべて満たす必要があります。
- PC用アプリケーション「ナビマスター S」で作成した画像データを「opv」形式で保存したもの
- 以下のフォルダ構成でファイルが保存されていること



1 MENU ▶ 設定 ▶ SDメモリーカード
2 オープニング画面の取り込み
3 オープニング画面を選択 ▶ 決定

TVサーチ情報の取り込み

SDカードとパソコンを使用してTVサーチ情報を更新できます。
TVサーチ情報とは、テレビで紹介された情報で、本機で目的地を検索する際に使用できます。
継続的に施設を紹介する特定の番組から、クラリオン株式会社オリジナルデータとして過去3年分の情報を抽出・本機に収録しています。

お願い
- データの取り込み中は、本機に関する一切の操作を行わないでください。データが破壊され、「TVの情報から探す」機能が正しく動作しなくなるおそれがあります。→ P.50

準備

以下が必要です。
- インターネットに接続できるパソコン
- PC用アプリケーション「ナビマスター S」→ P.163

1 **「ナビマスター S」のTV情報機能を使用し、SDカードへTVサーチ情報を保存**
(「ナビマスター S」画面上の「?」マークをクリックすると、TV情報機能の取扱説明書を参照できます。)
2 MENU ▶ 設定 ▶ SDメモリーカード
3 TVサーチ情報の更新 ▶ はい
本機のTVサーチ情報が更新されます。

お知らせ
- TVサーチ情報は最長で過去3年分を収録しています。データを更新すると、古いデータは消去され、過去3年以内の情報のみになります。消去したくない施設は、あらかじめ地点登録などをしておいてください。

OPTIONボタンの操作方法

[⚙] によく使う機能を割り付けられます。[⚙] を押すと、設定の変更や切り替えをすばやく行えます。

OPTIONボタンに機能を割り付ける

お知らせ

- 別売のフロントカメラ／コーナーカメラ接続時は、自動的に「カメラ映像ON/OFF」が割り付けられています。→ P.177

1 [⚙] を長押し

はじめて操作するときは、[⚙] を短く押してもOPTIONボタン割り付け画面を表示できます。

2 割り付けたい機能を選択

選択した機能が [⚙] に割り付けられます。

自宅：
自宅を目的地として設定する。
あらかじめ自宅を登録しておく必要があります。→ P.26「自宅を登録する」

現在地点登録
自車位置を登録リストに登録する。
→ P.58

軌跡表示（する／しない）：
地図上の軌跡マークの表示／非表示を切り替える。→ P.151

オーディオ音量ミュート（する／しない）：
オーディオ音量ミュートのON/OFFを切り替える。

時計画面表示（する／しない）：
時計画面の表示／非表示を切り替える。
→ P.20「時計の表示を設定する」

フロントカメラ（ON/OFF）／コーナーカメラ（ON/OFF）：
フロントカメラ映像またはコーナーカメラ映像のON/OFFを切り替える。（初期値：ON）→ P.177
別売のカメラ接続時のみ設定できます。

次回から [⚙] を押すと、割り付けた機能が実行されます。

Memo